

3 主な子ども・子育て施設の利用状況

1 子ども家庭支援センターの利用状況



出典: 子ども家庭支援センター作成資料

【子ども家庭支援センターとは】

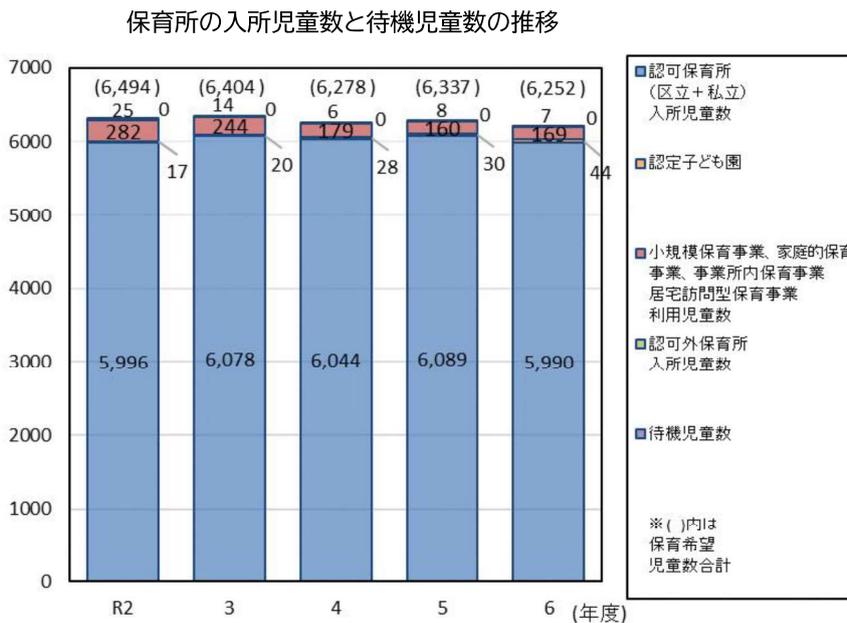
子ども家庭支援センターは、区民との協働で子育て支援を行うことを目的に設置された施設で、東部・西部2か所の子ども家庭支援センターで事業を行っています。

事業内容は、保護者や子ども自身からの相談を受け関係機関と連携して問題解決を図る「相談事業」、就学までの親子が自由に遊ぶことができる「親子遊び広場事業」、育児講座や保護者の自主的な活動を支援する「地域組織化事業」等があります。また、訪問相談員が訪問して子育ての相談に応じる「子育て訪問相談事業」、保護者の体調不良等で家事・育児に手助けが必要な家庭にヘルパーを派遣する「育児支援ヘルパー事業」、公立・私立保育園・スキップ等に巡回し発達相談ができる「巡回子育て発達相談事業」等があります。

東部子ども家庭支援センターは、児童福祉法上の「要保護児童対策地域協議会」の事務局として児童虐待対応を行っています。また、西部子ども家庭支援センターでは、発達に心配のある子どもを対象に、「児童発達支援事業」を行っています。

2 保育所の入所児童と待機児童の推移

- 豊島区では、保育所の定員弾力化等により入所児童を調整し、平成29年度以降待機児童数はゼロとなっています。



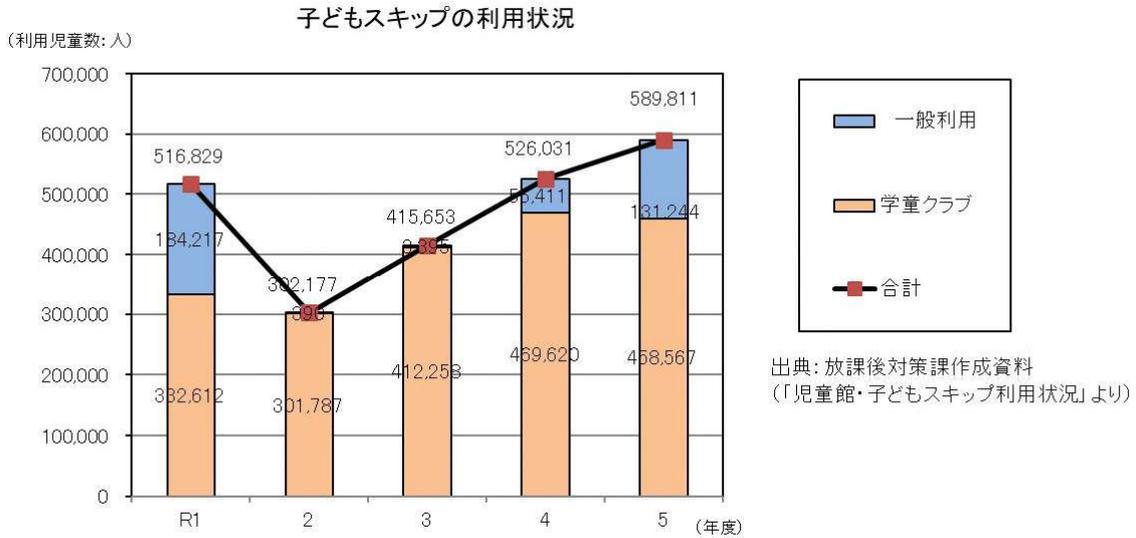
※各年度4月1日現在

※「待機児童数」は、国の「保育所等利用待機児童数調査要領」に基づく

出典: 保育課作成資料

3 子どもスキップの利用状況

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一般利用を一部限定して実施してきましたが、令和5年5月から全面再開し、利用者数は回復しています。



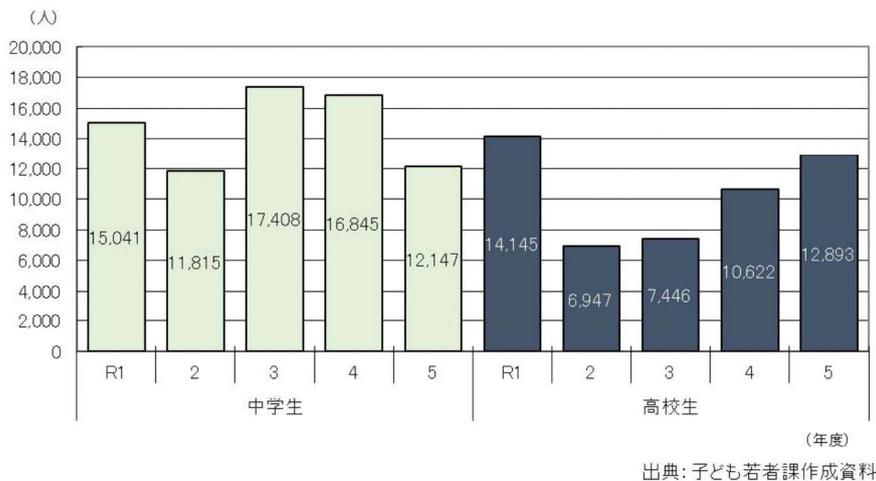
【子どもスキップとは】

「子どもスキップ」は、小学校区単位で「学童クラブ」・「一般利用」・「放課後子ども教室」を一体的に運営する小学生対象の放課後事業です。

子どもスキップ専用スペースのほか、学校施設を活用しており、児童は広い校庭で思いきり遊ぶことができます。

4 中高生センターの利用状況

- 令和2年度、令和5年度はそれぞれ新型コロナウイルス感染症防止対策、改修工事により一時的に利用者数が減少するも、利用者数は増加しています。



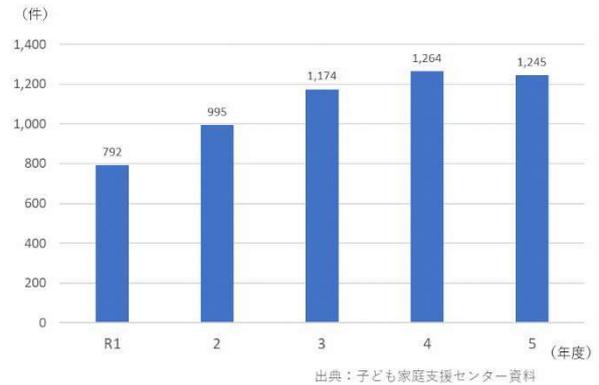
【中高生センターとは】

区が中高生の居場所施設として開設しました。中高生等が自主的に活動する場であり、中高生の自主的な活動を支援する場でもあります。

4 児童虐待の状況

1 要保護児童対策地域協議会の取扱件数

- 児童虐待に対する地域や関係機関の危機感の高まりにより、新規の相談・通告件数が増加しています。令和5年2月に豊島区児童相談所を開設し、児童相談所・子ども家庭支援センターの両輪で支援を進めています。



【「豊島区要保護児童対策地域協議会」とは】

要保護児童対策地域協議会とは、虐待等不適切な養育を受けた子ども等、要保護児童等に関する相談・通告を受け、情報の共有と支援を行うために協議を行う場です。児童福祉法では、区市町村は要保護児童対策地域協議会を設置し、虐待を含むすべての子ども・家庭相談を受け、問題解決に向けて対応することを努力義務化しています。

豊島区においては、東部子ども家庭支援センターが要保護児童対策地域協議会の中核機関として、要保護児童等に対する支援のためにネットワークの運営にあたります。

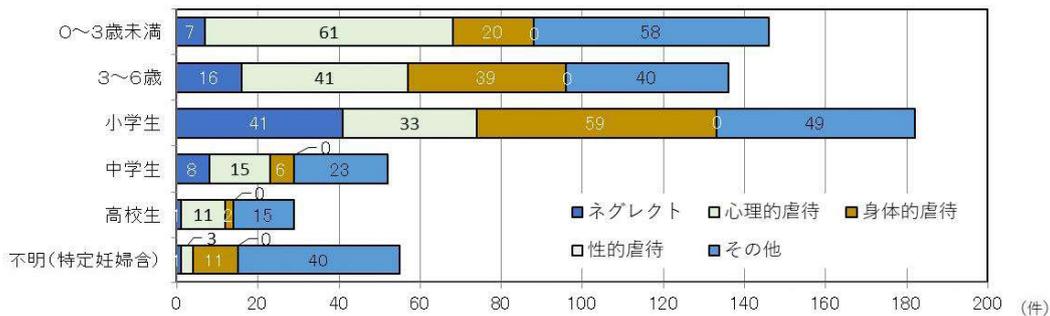
2 児童相談所における被虐待児童の相談対応状況(令和5年度)

- 児童相談所に対応した児童虐待件数のうち、心理的虐待が全体の約半数を占め、なかでも小学生への虐待が多くなっています。



3 新規受理要保護児童等の年齢区分別・主訴別件数(令和5年度)

- 子ども家庭支援センターでは、相談種別のその他にあたる児童虐待以外の相談(養育困難・特定妊婦)の割合が相談全体に対して高くなっています。



出典：子ども家庭支援センター作成資料

5 不登校・ひきこもりの状況

計画の基本的な考え方

子ども、若者と家庭を取り巻く状況

施策の方向

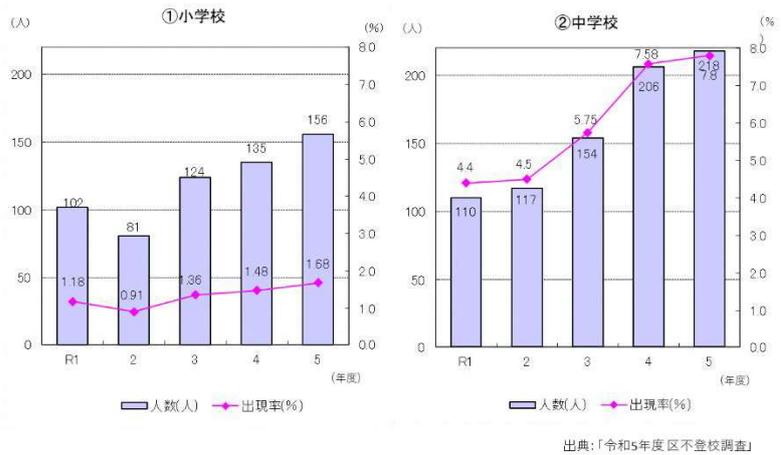
第三期子ども・子育て支援事業計画

計画の推進に向けて

資料編

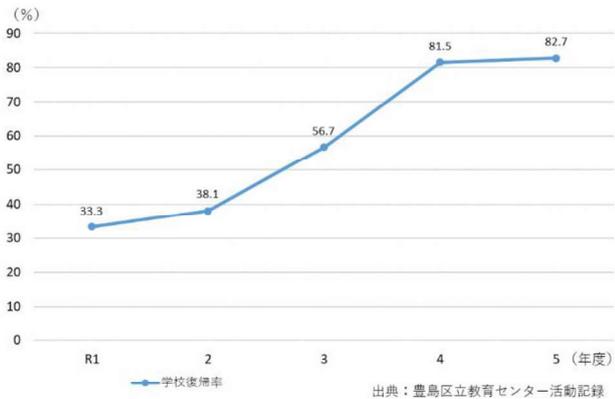
1 不登校児童・生徒の推移

- 不登校児童・生徒数は、小学校・中学校ともに増加しています。



2 柚子の木教室(適応指導教室)における学校復帰率

- 令和5年度の柚子の木教室においては、在籍75人のうち62人の児童・生徒が学校へ復帰しました(復帰率82.7%)。



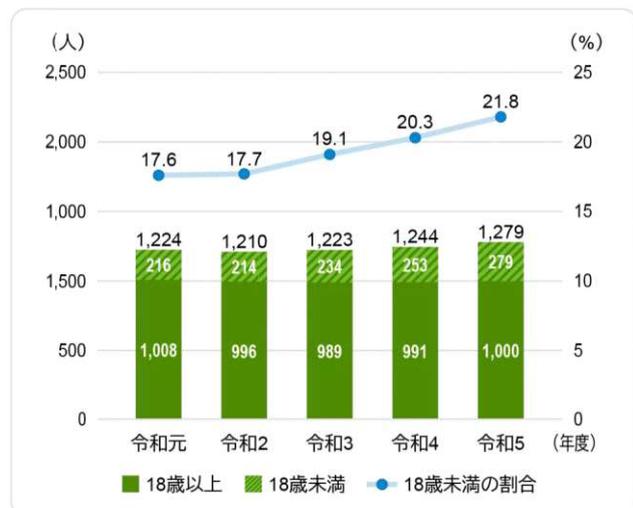
6 障害のある子どもの状況

- 身体障害者手帳所持者数はここ5年間でほぼ横ばいですが、愛の手帳(東京都療育手帳)所持者数は近年微増傾向にあります。

身体障害者手帳所持者数の推移



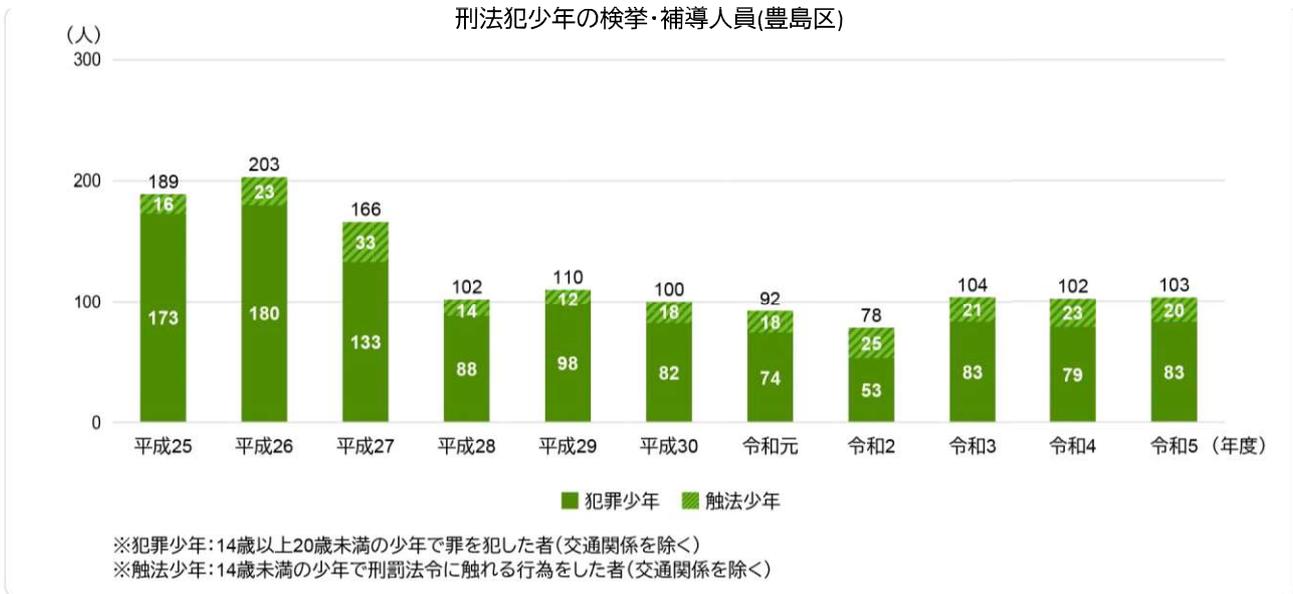
愛の手所持者数の推移



出典:豊島区の社会福祉

7 非行の状況

- 平成25年度以降の刑法犯少年の検挙・補導人員は、平成28年度に大きく減少し、コロナ禍であった令和2年度を除き、100人前後で横ばいとなっています。

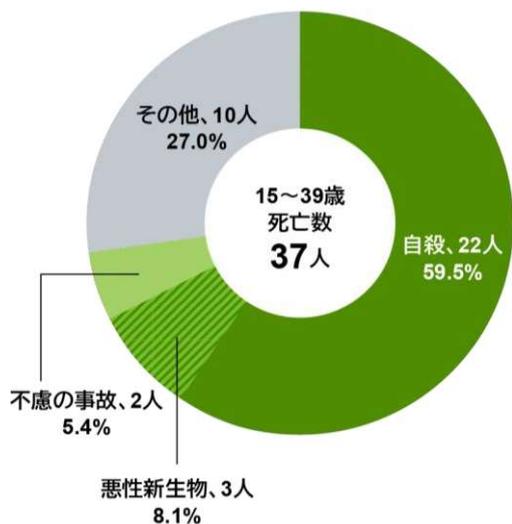


出典:警視庁の統計(豊島区内の池袋・巣鴨・目白警察管内の件数の合計)

8 自殺者数の推移

- 15歳から39歳の死因のトップは自殺となっています。
- 厚生労働省が、全国の令和5年中における自殺のうち、遺書等により推察できる原因・動機をまとめた資料によると、19歳までは学校問題、20代・30代は健康問題、特にうつ病などの精神疾患の悩み・影響が多くなっています。

15～39歳の主要死因分類(令和4年)



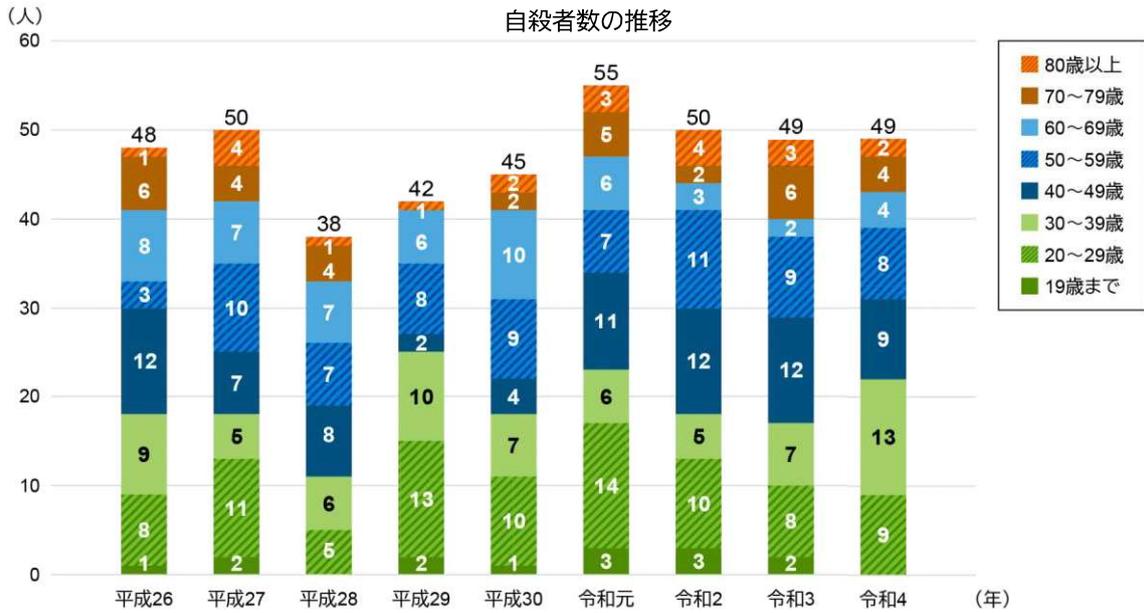
【参考】

原因・動機特定者の原因・動機別(全国)

	～19歳	20～29歳	30～39歳
家庭問題	155	358	574
健康問題	263	1,005	1,130
経済・生活問題	32	531	771
勤務問題	29	491	547
男女問題	70	358	187
学校問題	326	195	3
その他	106	246	216
合計	981	3,184	3,428

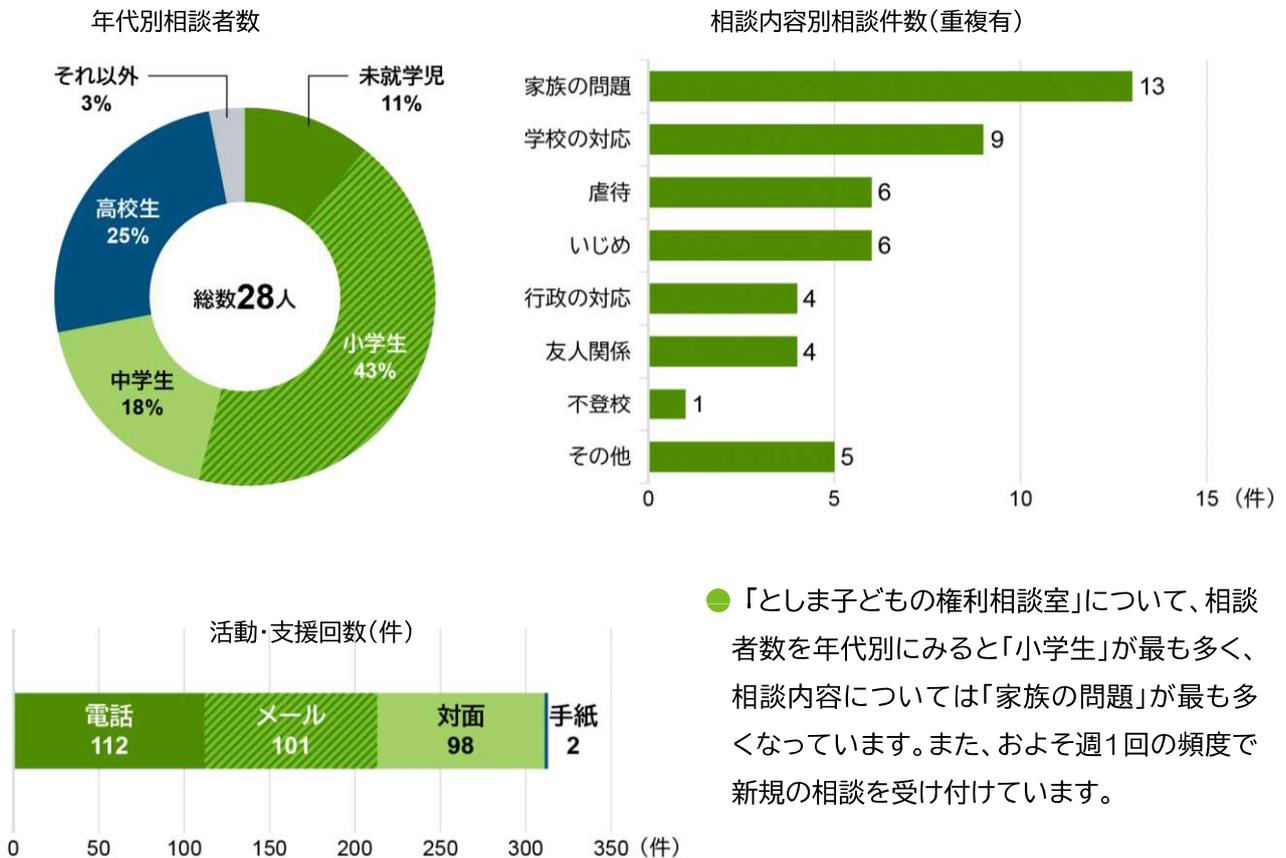
出典:厚生労働省 令和5年中における自殺の状況
 注)自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注)遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上することとしたため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者の和とは一致しない。



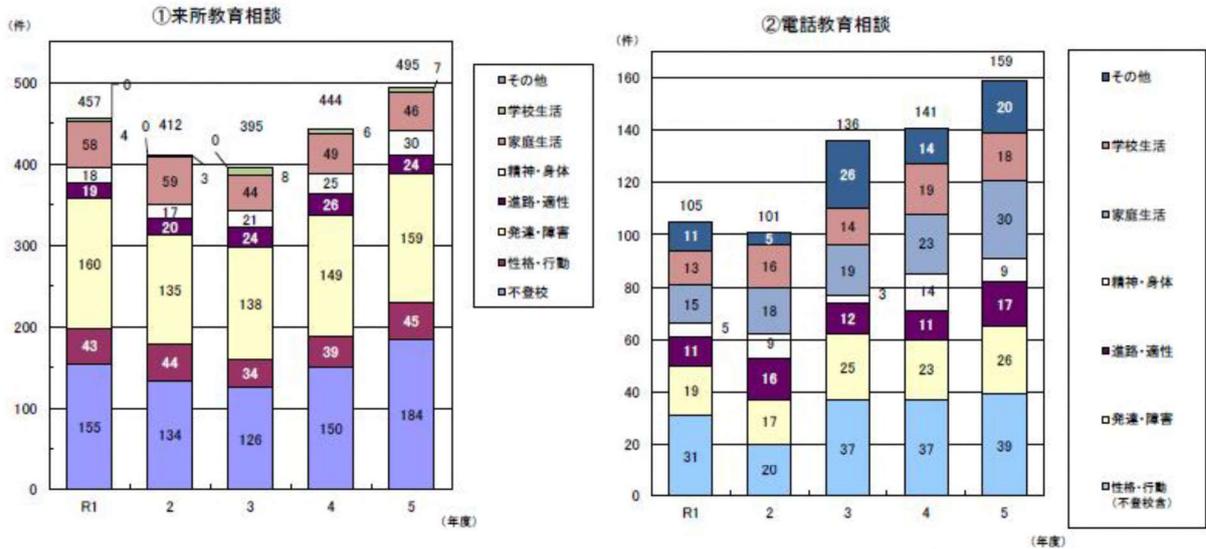
9 子ども・若者の相談に関する状況

1 としま子どもの権利相談室への相談状況(令和5年9月開設～令和6年3月)



2 教育相談の内容別件数

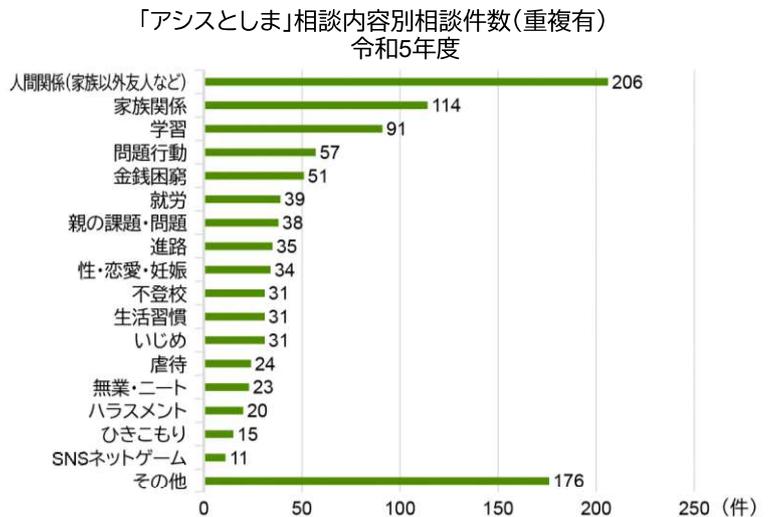
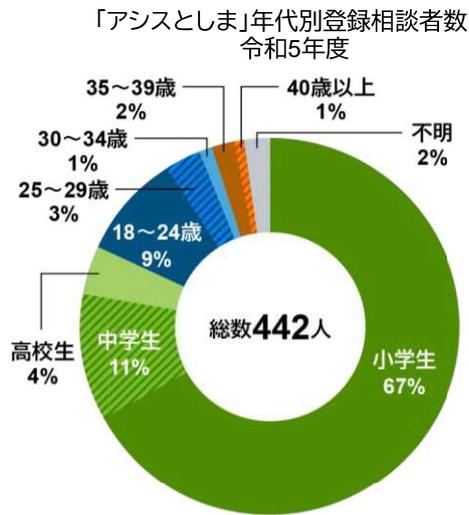
●教育センターにおける相談の件数を主訴別にみると、不登校や発達・障害に関する相談が増加しています。



出典：豊島区立教育センター活動記録

3 アスとしまへの相談状況

●子ども若者総合相談窓口である「アスとしま」について、登録相談者数を年代別にみると小学生が最も多く、相談内容別に相談件数をみると「人間関係」が最も多く、次いで「家族関係」が多くなっています。

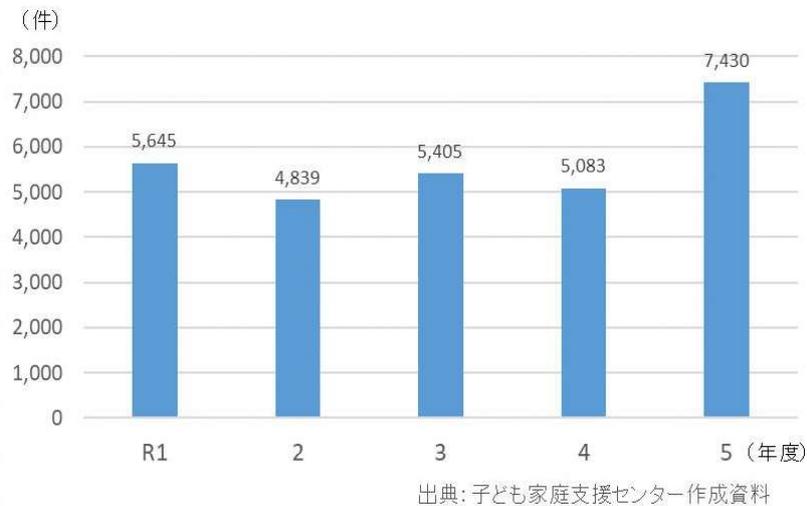


●相談者数、支援回数は年々増加しています。

出典：子ども若者課作成資料

4 児童発達支援センター(西部子ども家庭支援センター)への相談状況

- 発達相談件数は、増加傾向が続いています。



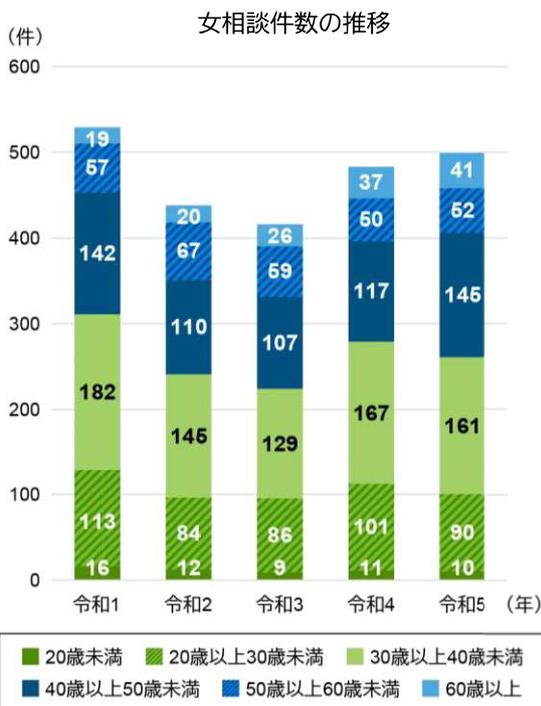
計画の基本的な考え方

子ども、若者と家庭を取り巻く状況

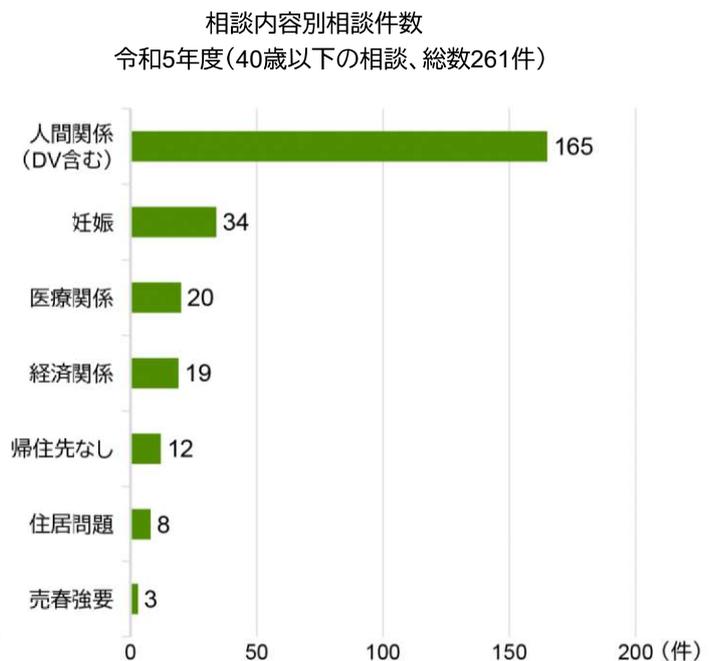
施策の方向

5 子ども家庭女性相談の状況

- 30歳以上40歳未満の年齢の女性からの相談件数が多くなっています。
- 40歳以下の相談の内容は、人間関係(DV含む)が最も多くなっています。



出典:子育て支援課作成資料



出典:子育て支援課作成資料

第三期子ども・子育て支援事業計画

計画の推進に向けて

資料編

2

子ども・若者や保護者の意識・意向〈アンケート調査の結果〉

- 豊島区子ども・若者総合計画(令和2～6年度)では、計画の進捗を測る指標を設定し、施策を展開してきました。それら指標の進捗を測るため、令和5年11月に区の子ども・若者や子育て家庭を取り巻く状況・生活実態・意識等の現状を把握することを目的として、アンケート調査を実施しました。

● 子ども・若者の実態・意識に関するアンケート調査概要

区民調査					
対象者		子ども・若者の年齢	配布数	回収数	回収率
保護者	①就学前児童保護者	0～5歳	1,500	816	54.4%
	②小学校1～3年生保護者	6～8歳	750	376	50.1%
	③小学校4～6年生保護者	9～11歳	750	281	37.5%
	④中学生の保護者	12～14歳	750	246	32.8%
	⑤高校生等の保護者	15～17歳	750	209	27.9%
子ども ・ 若者	⑥小学校4～6年生本人	9～11歳(上記③の子ども)	750	213	28.4%
	⑦中学生本人	12～14歳(上記④の子ども)	750	180	24.0%
	⑧高校生等本人	15～17歳(上記⑤の子ども)	750	148	19.7%
	⑨若者	18～29歳	1,500	280	18.7%
小計			8,250	2,760	33.5%
子ども施設職員・地域団体等調査					
区分	対象者		配付数	回収数	回収率
地域団体等	町会、民生委員・児童委員、保護司、青少年育成委員、社会福祉協議会		350	220	62.9%
区施設職員	保育園、幼稚園、小中学校、子どもスキップ、中高生センタージャンプ、教育センター、区民ひろば、子ども家庭支援センター、池袋保健所、長崎健康相談所、児童相談所の職員		300	278	92.7%
小計			650	498	76.6%
合計			8,900	3,258	36.6%

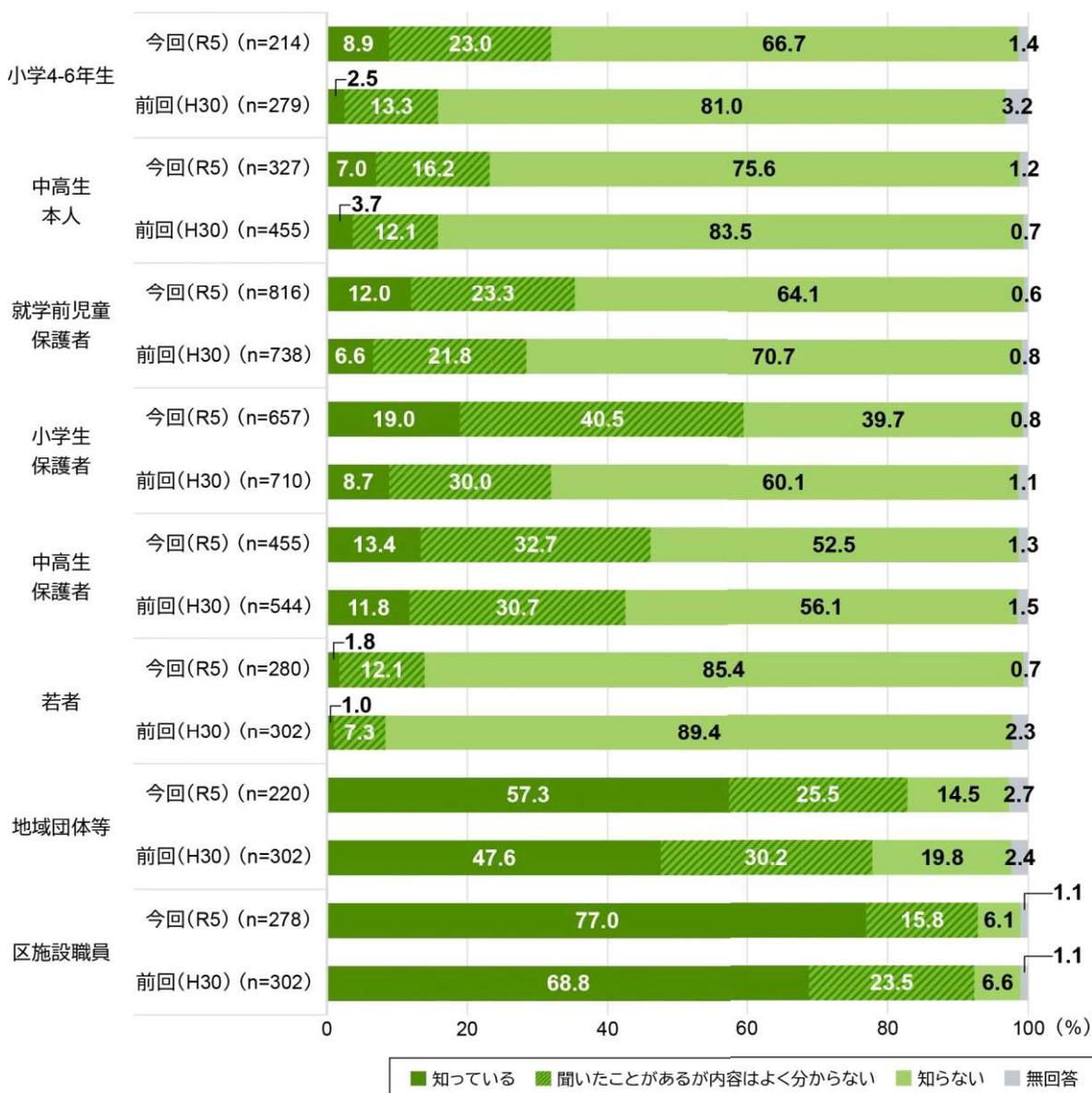
※次ページ以降の「前回調査」とは、平成31年に実施した「(仮称)豊島区子ども・若者総合計画策定のためのアンケート調査」を指します。なお、調査の対象及び配布数は上記と同様で、回収率は39.5%でした。

1 子どもの権利に関する意識・意向

● 「豊島区子どもの権利に関する条例」認知度

● 豊島区子どもの権利に関する条例について、「知っている」と回答した小学4～6年生は8.9%、中高生は7.0%、若者は1.8%、保護者は12.0%から19.0%でした。

● 条例の認知度は、子ども・若者、保護者ともに5年前と比較して向上していますが、条例を知らない子ども・若者、保護者の割合はいずれも高くなっています。



計画の基本的な考え方

子ども・若者と家庭を取り巻く状況

施策の方向

第三期子ども・子育て支援事業計画

計画の推進に向けて

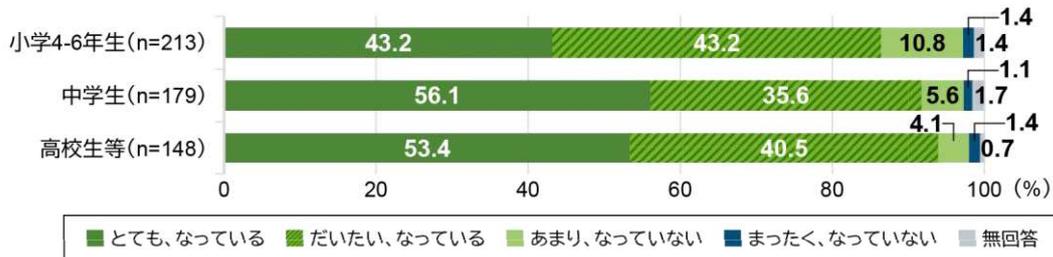
資料編

● 子どもの意見表明と参加(家庭)

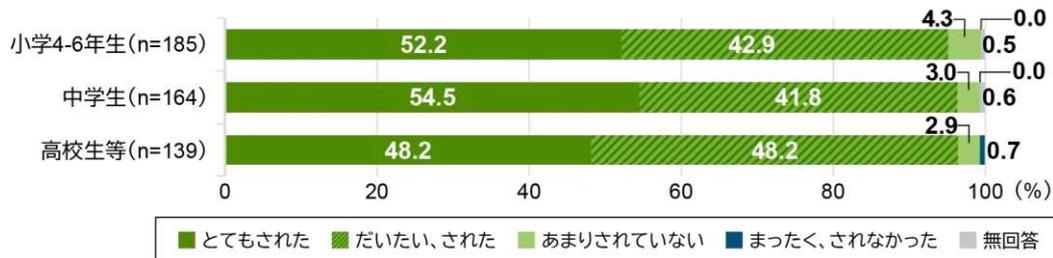
- 子ども本人について、小学生の43.2%、中学生の56.1%、高校生等の53.4%が「自分の意見を聴いてもらえる」、また、小学生の52.2%、中学生の54.5%、高校生等の48.2%が「自分の意見や思いはとても大切にされている」と回答しています。
- 保護者について、小学生保護者の74.6%、中学生保護者の69.9%、高校生等保護者の68.4%が「普段家庭で子どもの話をよく聞いている」と回答し、小学生保護者の64.1%、中学生保護者の56.9%、高校生等保護者の58.4%が「家庭で何かを決める時に子どもの意見や考えを取り入れている」と回答しています。

子ども本人

■家で何かを決めるとき、あなたは意見を言えるようになっていきますか

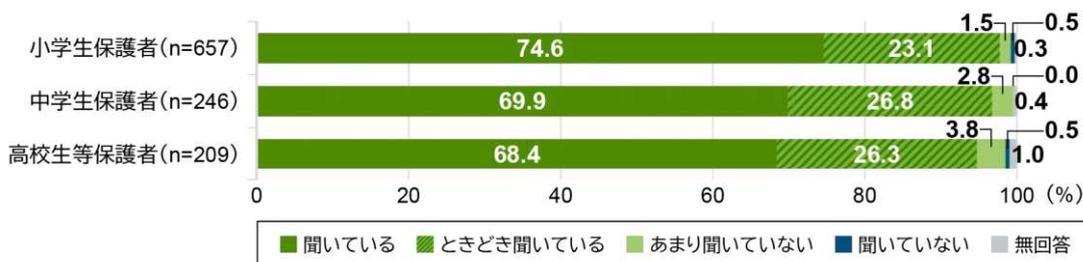


■家であなたの意見や思いは大切にされましたか

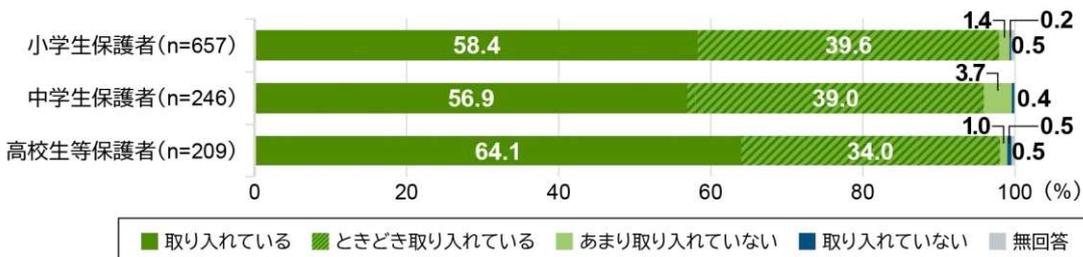


保護者

■あなたは、ふだん家で子どもの話をよく聞いていますか



■あなたは、家で何かを決めるとき、子どもの思いや考えを取り入れていますか

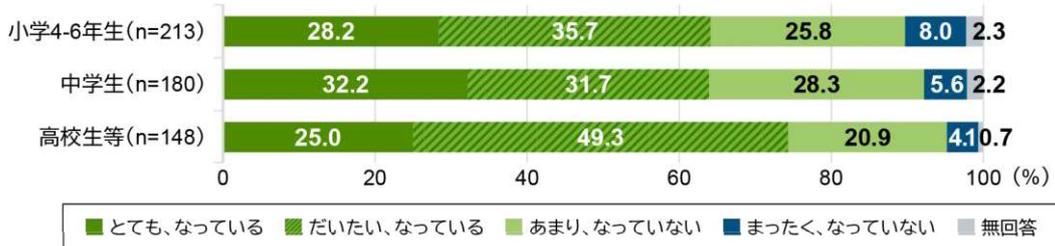


● 子どもの意見表明と参加(学校)

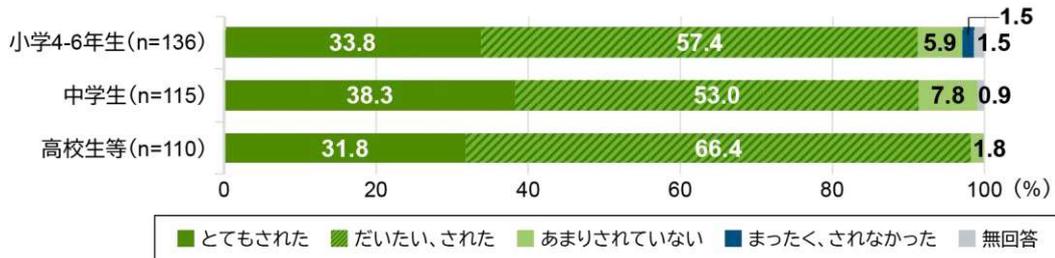
- 子ども本人について、小学生の28.2%、中学生の32.2%、高校生等の25.0%が「自分の意見を言える」、また、小学生の33.8%、中学生の38.3%、高校生等の31.8%が「意見や思いはとても大切にされている」と回答しています。
- 区立小学校職員の27.7%及び区立中学校職員の34.3%が子どもの気持ちや意見を「受け止めることができている」と回答し、区立小学校職員の7.9%及び区立中学校職員の14.3%が、子どもから聞いた意見を「反映させたり実現させたりすることができている」と回答しています。

子ども本人

■ 学校で何かを決めるとき、あなたは意見を言えるようになっていきますか

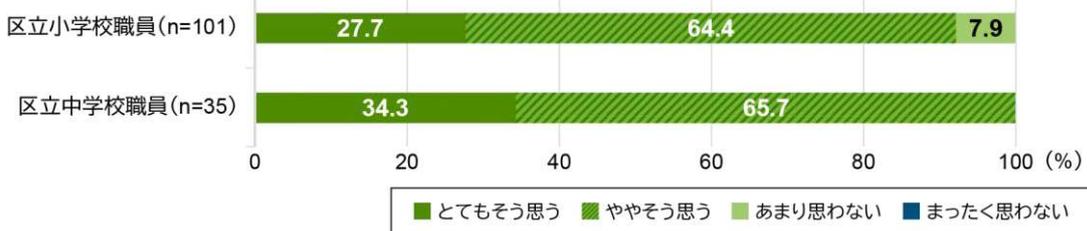


■ 学校であなたの意見や思いは大切にされましたか

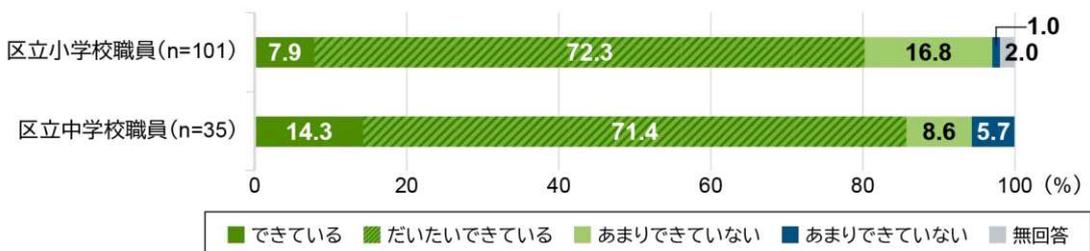


区立小中学校職員

■ あなたは、子どもの気持ちや意見を聞くこと(受け止めること)ができていますか



■ あなたは、子どもから聞いた意見を、実際に反映させたり実現させたりすることができていますか

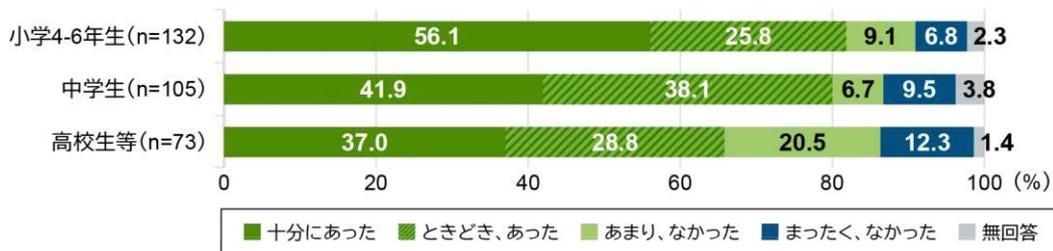


● 子どもの意見表明と参加(地域)

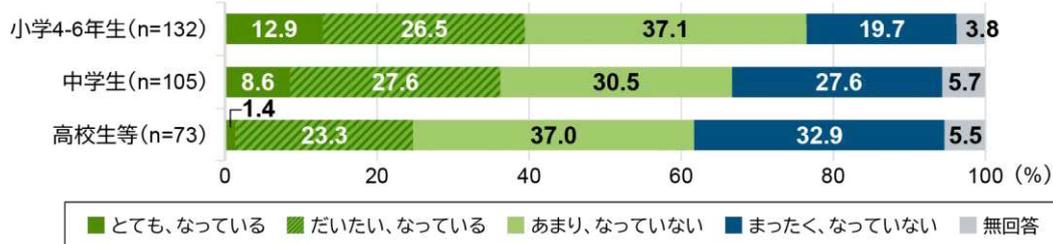
- 子ども本人について、小学生の56.1%、中学生の41.9%、高校生等の37.0%が、地域で何かをしたり、決めたりする時に「大人から事前の説明が十分にあった」と回答し、小学生の12.9%中学生の8.6%、高校生等の1.4%が「自分の意見を聞いてもらえる」、小学生の32.7%、中学生の26.3%、高校生等の11.1%が「自分の意見や思いはとても大切にされた」と回答しています。
- 地域団体等の84.1%が子どもの気持ちや意見を「受け止めることができている」と回答し、55.9%が子どもから聴いた意見を「反映させたり実現させたりできている」と回答しています。

子ども本人

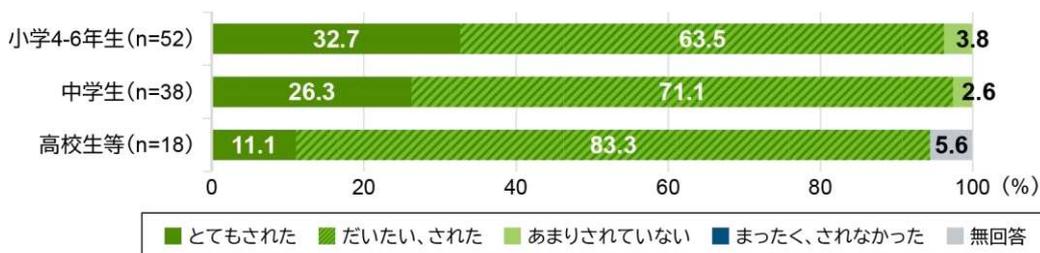
■ 地域で何かをしたり、決めたりするとき、大人から事前の説明がありましたか



■ 地域で何かをしたり、決めたりするとき、あなたは意見を言えるようになっていきますか

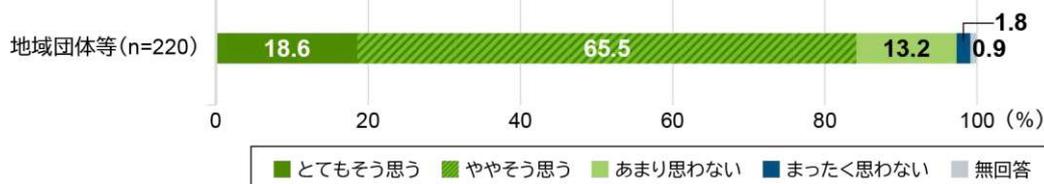


■ 地域であなたの意見や思いは大切にされましたか

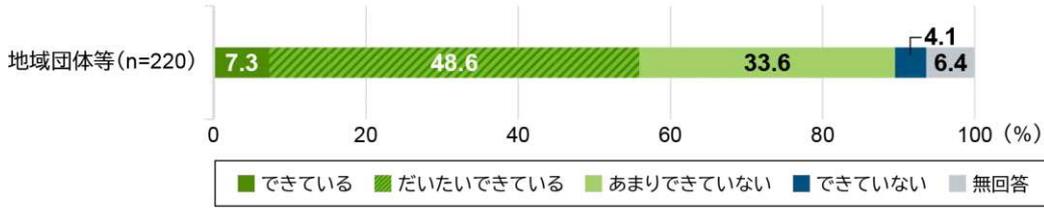


地域

■ あなたは、子どもの気持ちや意見を聞くこと(受け止めること)ができていると思いますか



■あなたは、子どもから聞いた意見を、実際に反映させたり実現させたりすることができますか



計画の基本的な考え方

子ども、若者と家庭を取り巻く状況

施策の方向

第三期子ども・子育て支援事業計画

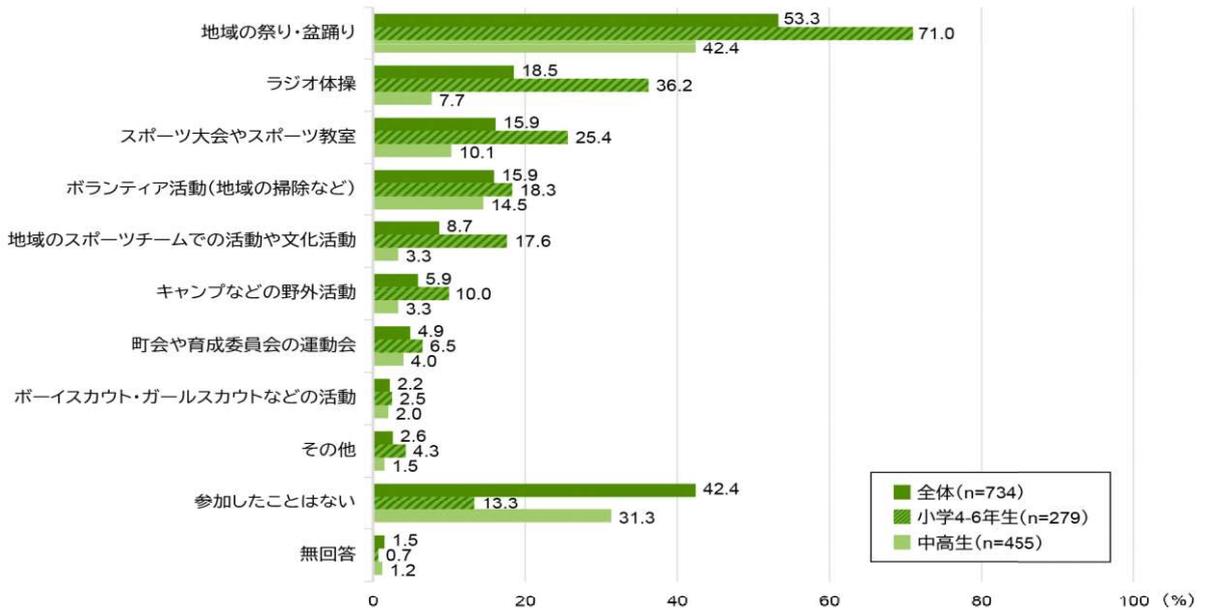
計画の推進に向けて

資料編

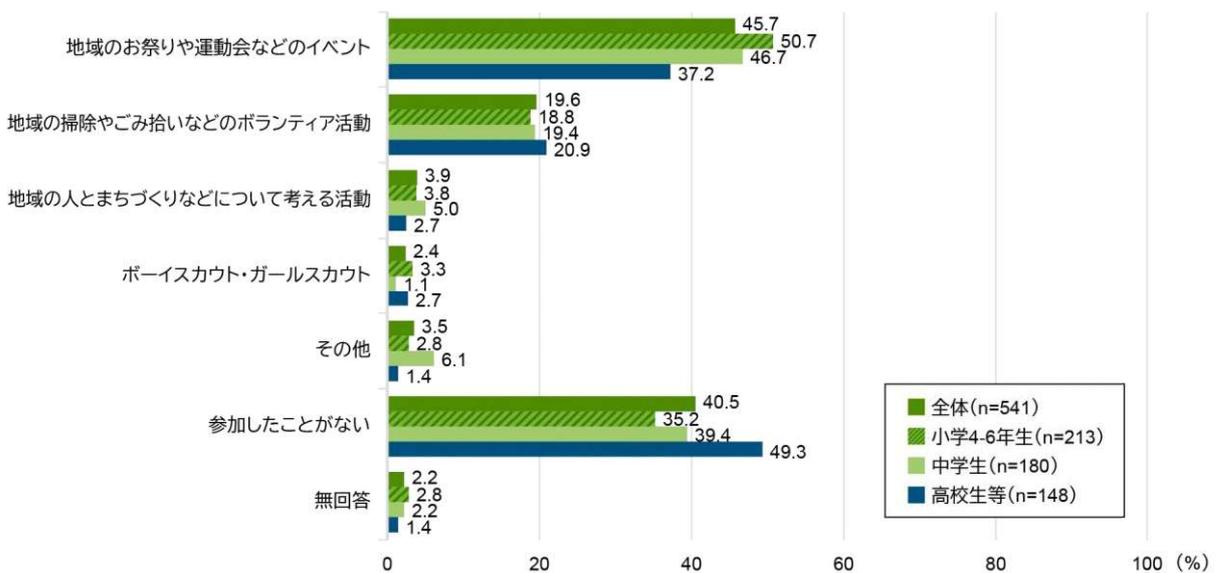
● 地域活動への参加状況

- 参加したことがある地域活動について、子ども全体の42.4%が「参加したことがない」と回答しており、5年前と比較して地域活動への参加状況が低くなっています。コロナ禍による地域活動の縮小が要因であることが伺えます。

【H30】この一年間に参加したことがある活動(複数回答)



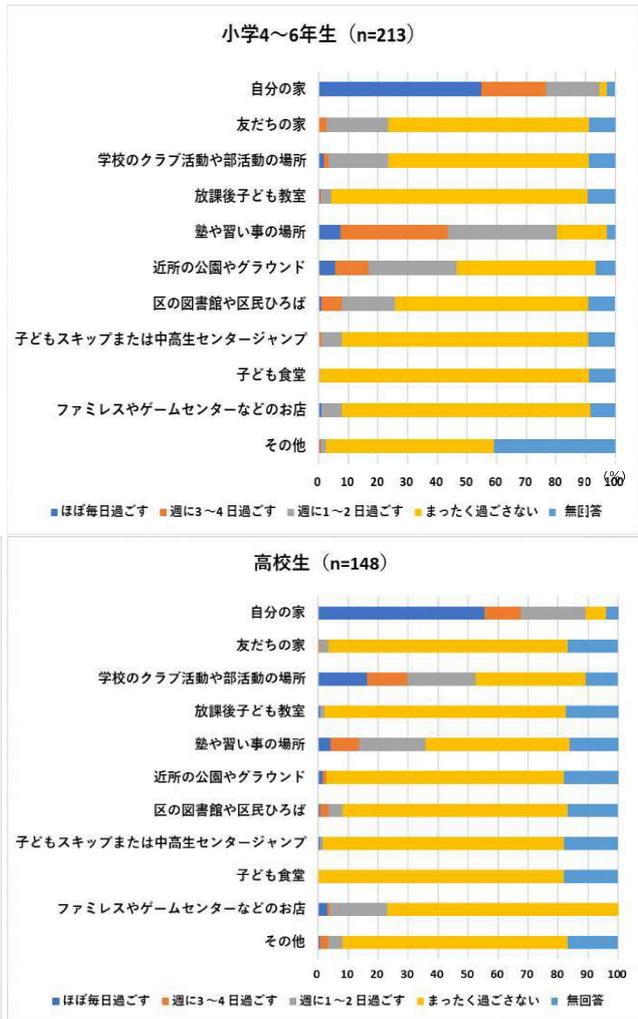
【R5】これまでに参加したことがある活動(複数回答)



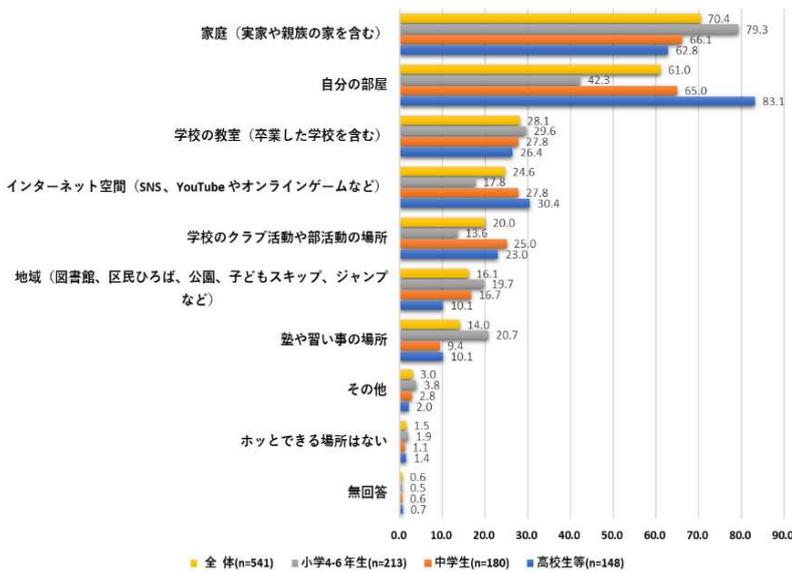
子どもの居場所

■放課後に過ごす場所はどこですか

- ◎いずれの年代の子どもも自分の家で過ごす割合が高くなっています。
- ◎小学生は、塾や習い事、公園やグラウンドで過ごすことが多くなっています。
- ◎中高生は、学校のクラブ活動や部活動、塾や習い事をして過ごすことが多くなっています。



■ホットとする場所はどこですか(複数回答)



◎いずれの年代の子どもも自分の部屋や家庭、学校の教室が居場所であると回答する割合が高くなっています。

◎小学生は、地域や塾・習い事を居場所とする回答が2割を占めています。

◎中高生は、学校のクラブ活動や部活動の場所、インターネット空間を居場所と回答する割合が高くなっています。

計画の基本的な考え方

子ども、若者と家庭を取り巻く状況

施策の方向

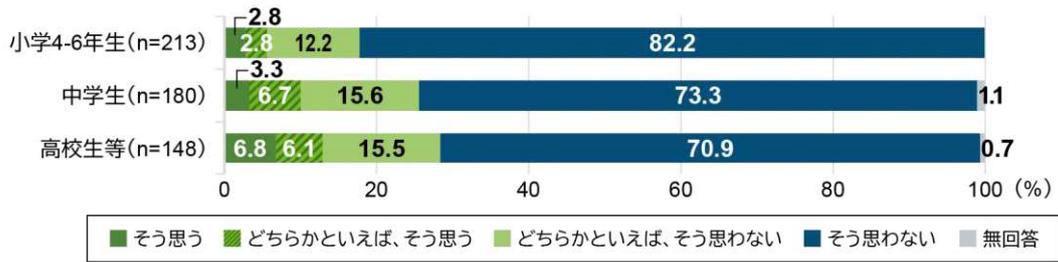
第三期子ども・子育て支援事業計画

計画の推進に向けて

資料編

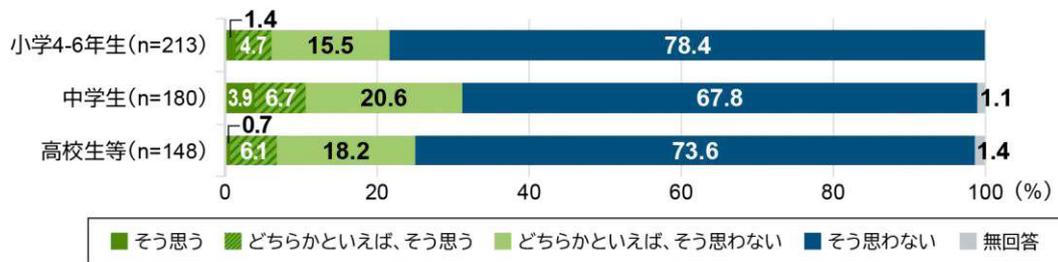
●小学生の5.6%、中学生の10.0%、高校生等の12.9%が「自分には話せる人がいないと思う」と回答しています。

■あなたは、自分には話せる人がいないと思いますか



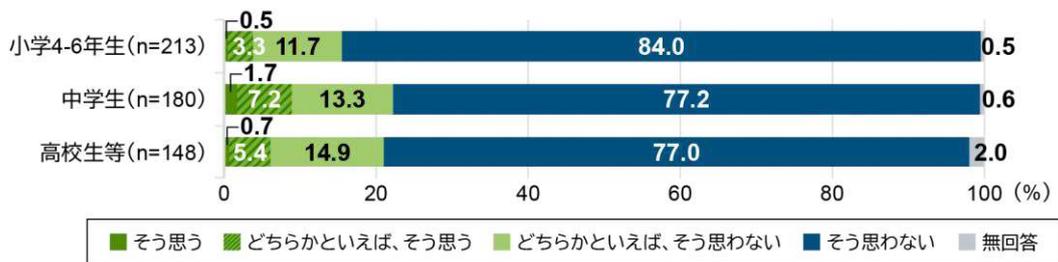
●小学生の6.1%、中学生の10.6%、高校生等の6.8%が「自分はまわりから取り残されていると思う」と回答しています。

■あなたは、自分はまわりから取り残されていると思いますか



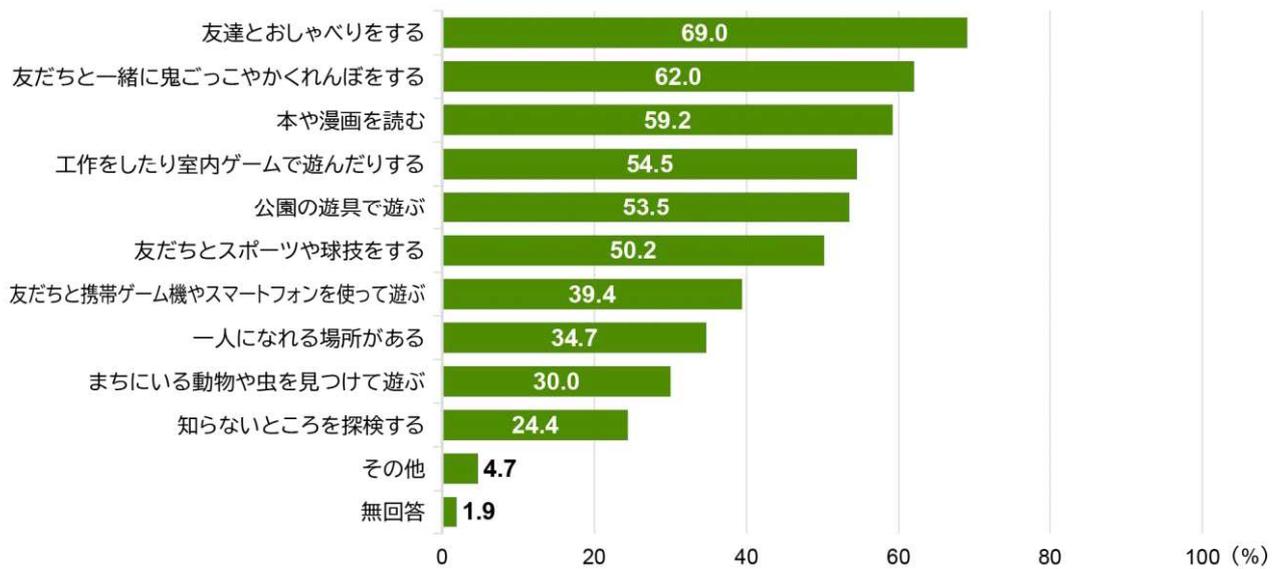
●小学生の3.8%、中学生の8.9%、高校生等の6.1%が「自分はひとりぼっちだと思う」と回答しています。

■あなたは、自分はひとりぼっちだと思いますか

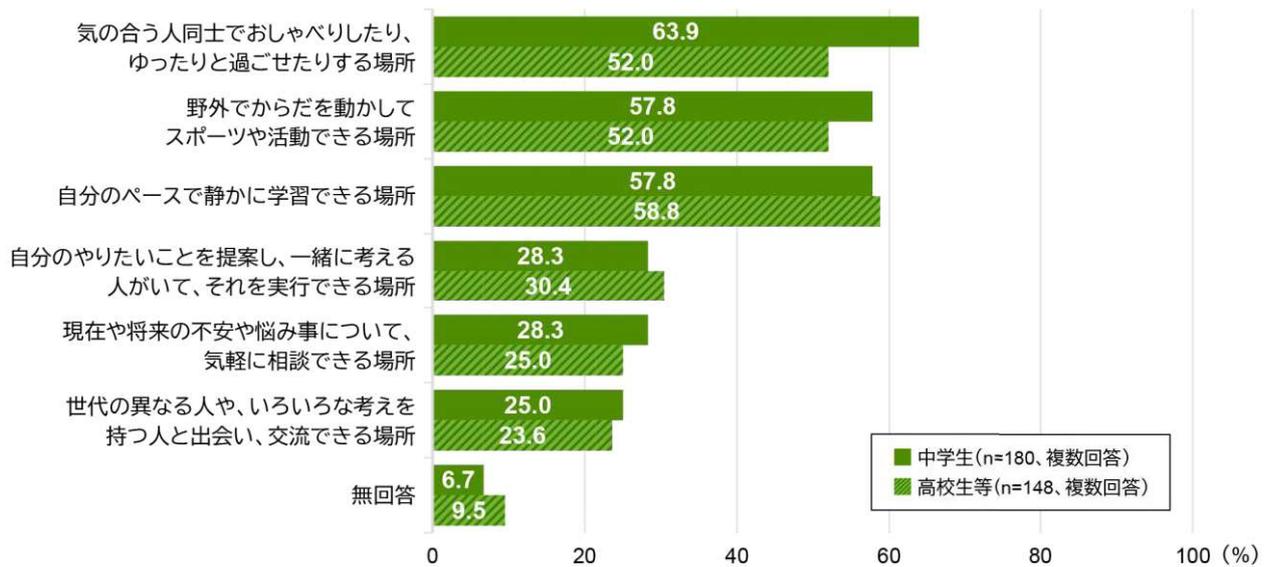


- 小学生本人へ地域の中にどんな遊び場所があるといいかを聞いたところ、「友だちとおしゃべりをする場所」が最も多く、全体の69.0%となっています。次いで、「友だちと一緒に鬼ごっこやかくれんぼをする場所」、「本や漫画を読む場所」、「工作をしたり室内ゲームで遊んだりする場所」、「公園の遊具で遊ぶ」が続きました。
- また、中高生等本人へ地域の中にどのような場所があるといいかを聞いたところ、「気の合う人同士でおしゃべりしたり、ゆったりと過ごせたりする場所」、「自分のペースで静かに学習できる場所」、「野外でからだを動かしてスポーツ活動ができる場所」と回答した声が多くありました。いずれの選択肢に対しても20.0%以上の中高生等本人があるといいと回答しました。

■あなたは、地域の中にどんな遊びができる場所があるといいと思いますか（小学4-6年生、n=213、複数回答）



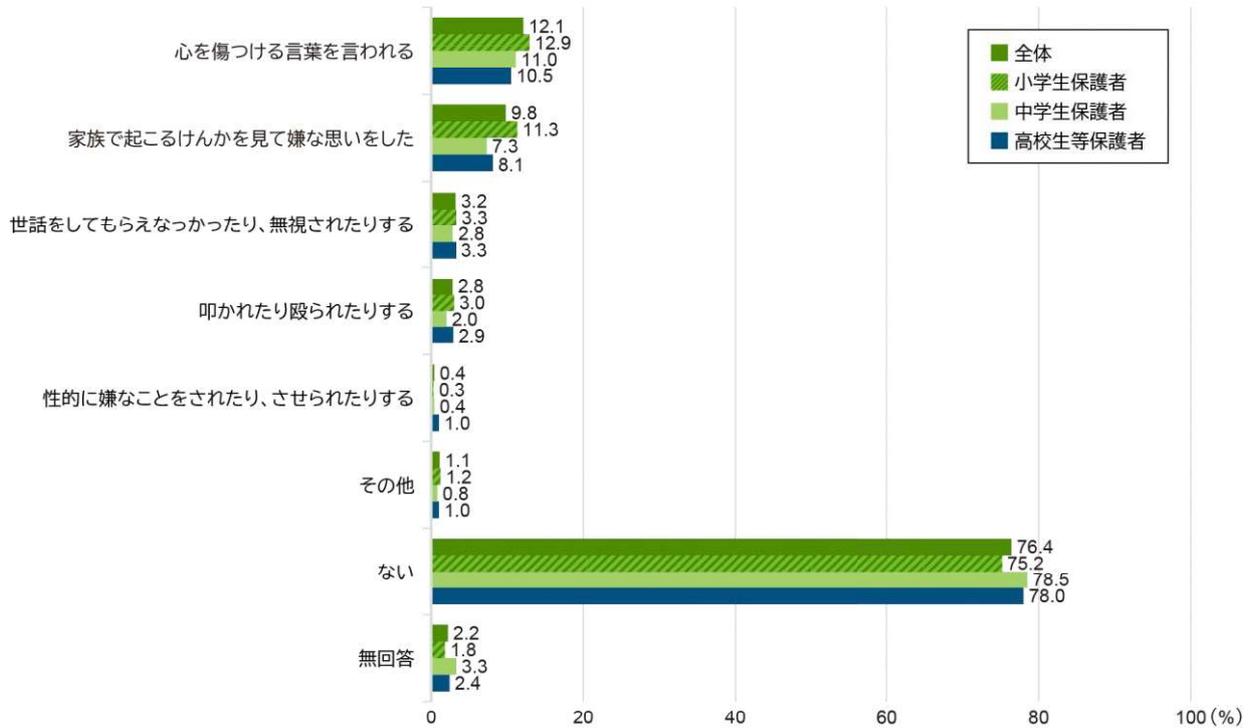
■あなたは、地域の中にどのような場所があるといいと思いますか



● 子どもの権利侵害の状況

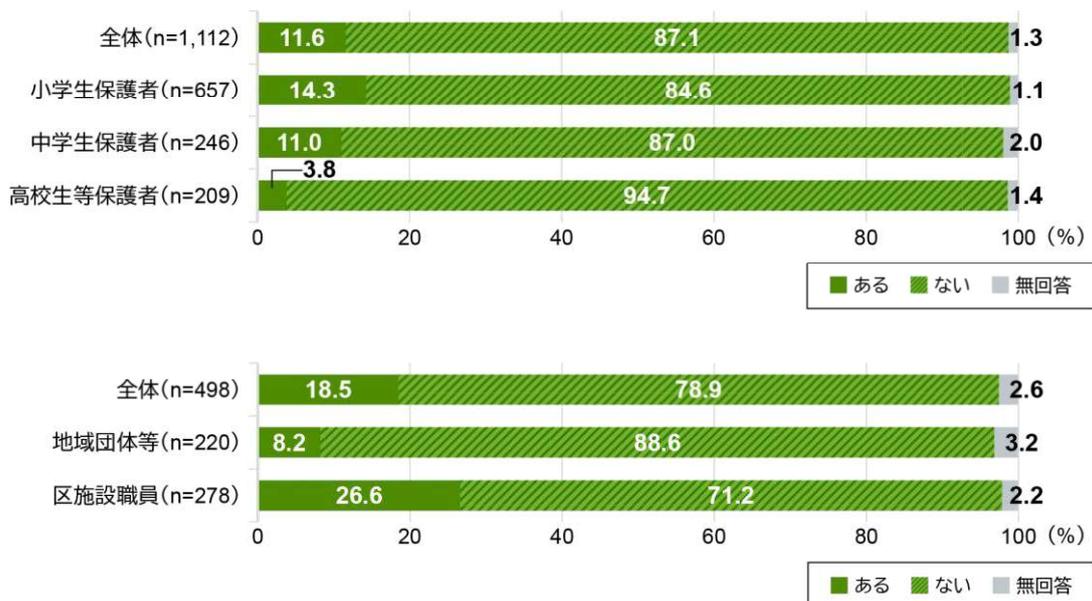
- 虐待の経験について、小学生及び中高生の保護者の24.0%が、大人との関わりの中で子どもが困難に直面していることに気づいたと回答しています。特に「心を傷つける言葉を言われる」、「家族で起こるけんかを見て、いやな思いをした」ことが多くなっています。

子どもが大人にされたことに気づいたこと(複数回答)



- いじめの経験について、小学生及び中高生の保護者の11.6%、及び地域団体等及び区施設職員の18.5%が、自身や身の回りのこどものいじめ(いじめられる・いじめているの両方を含む)に気づいたことがあると回答しています。

いじめに気づいたことの有無

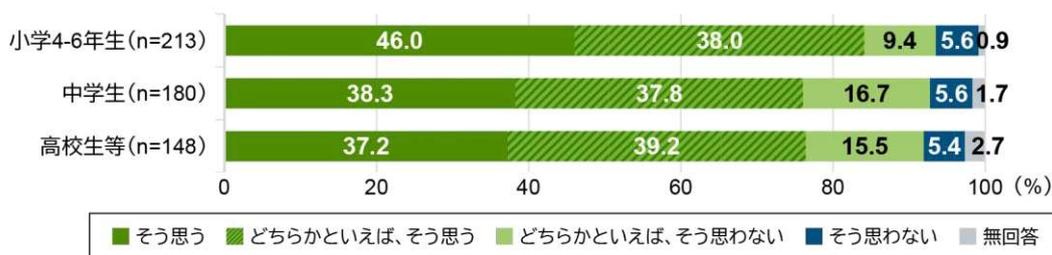


2 子どもの意識・意向

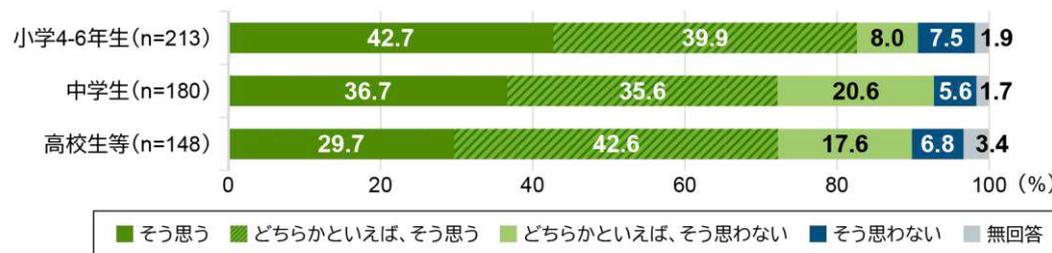
● 子どもの自己肯定感・自己有用感

- 自分を好きだと思っているかという質問では、小学4～6年生は「そう思う」が、中高生では「どちらかといえばそう思う」の回答が最も大きくなりました。年代が上がるにつれて「そう思う」の回答が少なくなる傾向があります。
- 「自分の将来は明るいと思う」と回答する子どもは、小学生が42.7%、中学生は36.7%、高校生等は29.7%でした。一方、小学生の11.6%、中学生の7.2%、高校生等の7.4%が、「自分が役に立たないと強く感じている」と回答しています。

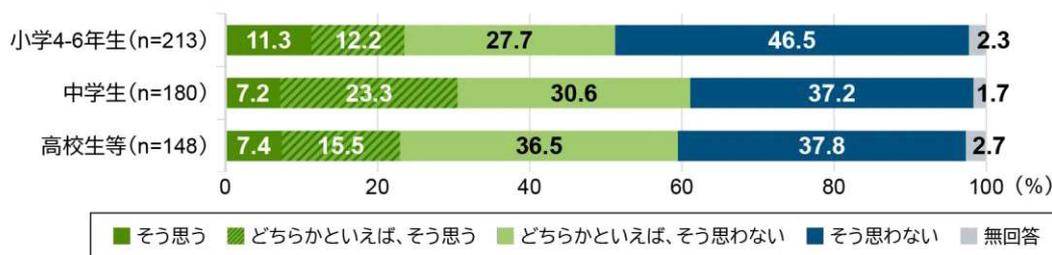
■今の自分が好きだと思いますか



■自分の将来は明るいと思いますか



■自分は役に立たないと強く感じていますか



計画の基本的な考え方

子ども、若者と家庭を取り巻く状況

施策の方向

第三期子ども・子育て支援事業計画

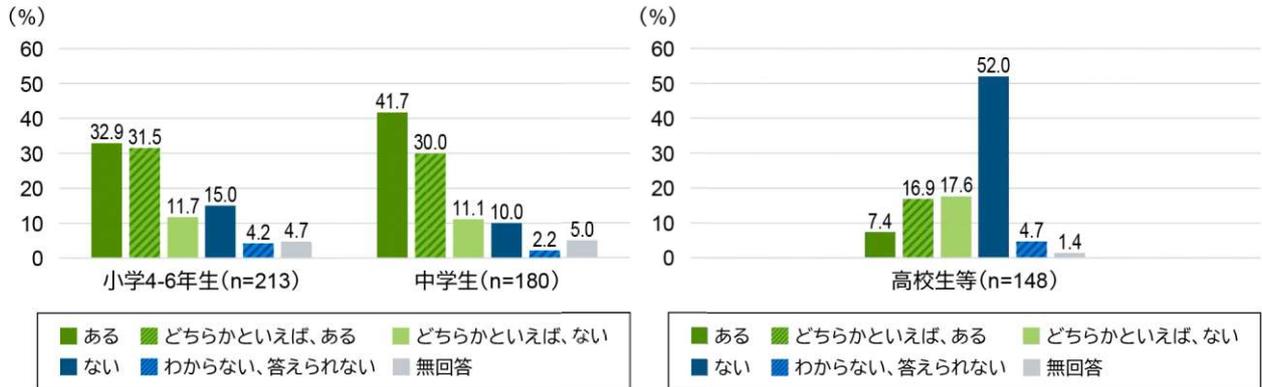
計画の推進に向けて

資料編

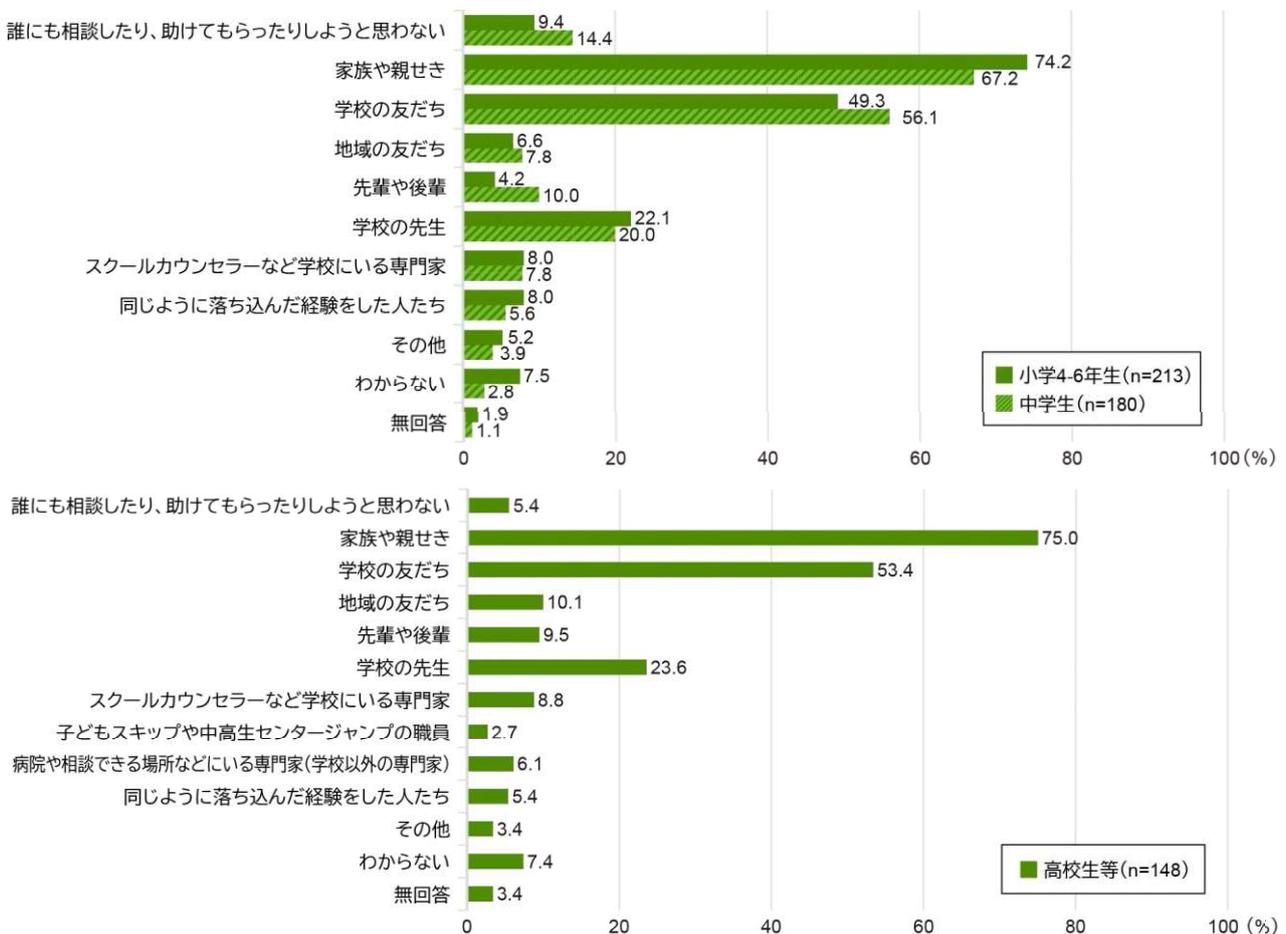
● 悩みや困っていることについて

- 小学生の64.0%、中学生の71.3%がものごとがうまくいかず落ち込んだ経験があると回答しています。
- 高校生等の24.3%が社会生活や日常生活を円滑に送ることができなくなった経験があると回答しています。
- 落ち込んだり、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなくなったりした時の相談先は、小中学生、高校生等のいずれも「家族や親せき」、「学校の友達」「学校の先生」と回答した割合が高くなっています。

- 今までものごとがうまくいかずに落ち込んだ経験はありますか(小中学生)
- 今までに社会生活や日常生活を円滑に送ることができなくなったことがありますか(高校生等)



- ものごとがうまくいかずに落ち込んだときに、どういった人に相談しますか(小中学生)
- 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなくなったときに、どういった人に相談しますか(高校生等)



3 保護者の意識・意向

計画の基本的な
考え方

子ども、若者と家庭を
取り巻く状況

施策の方向

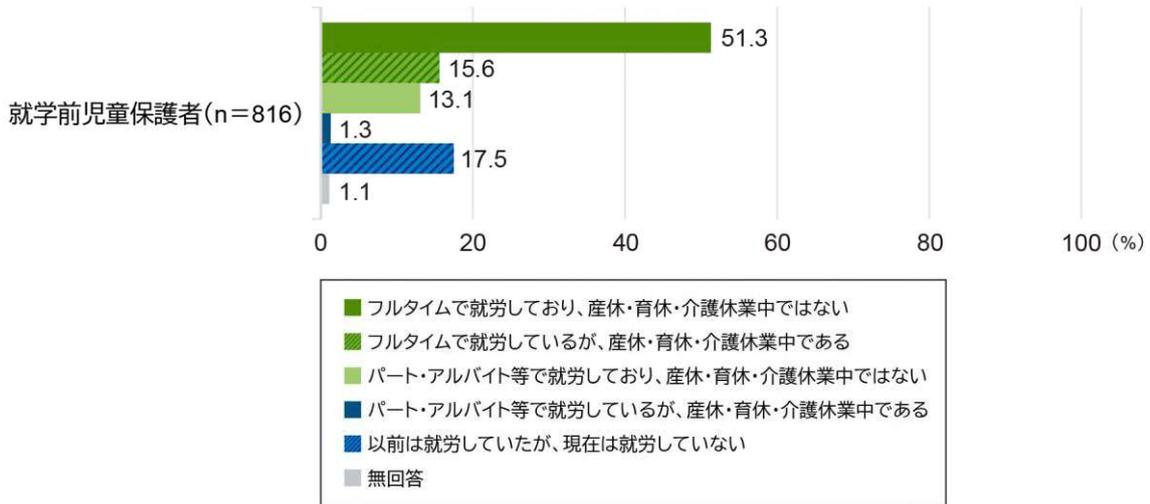
第三期子ども・
子育て支援事業計画

計画の推進に向けて

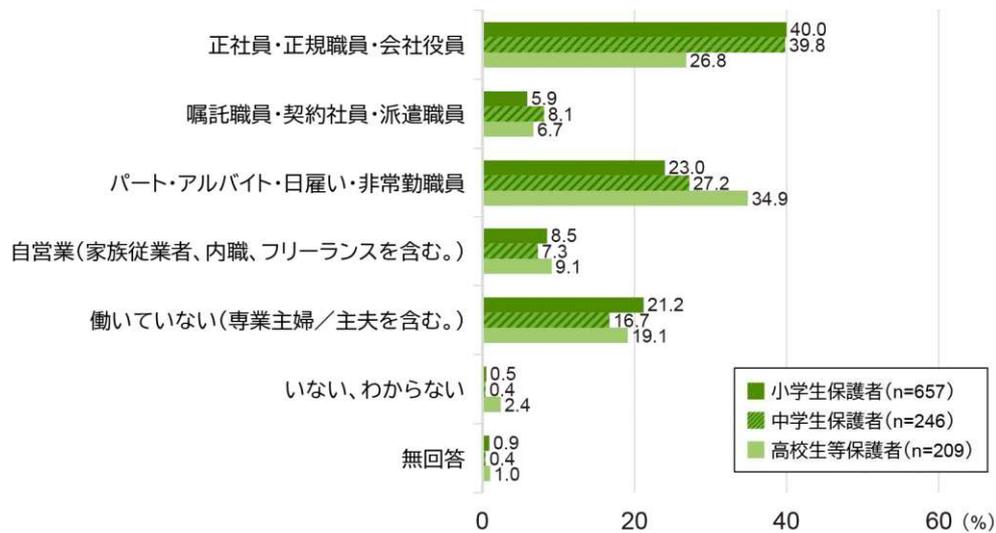
資料編

● 母親の就労状況

- 就学前児童保護者(母親)の66.9%が「フルタイムで就労している」と回答しています。一方で17.5%の就学前児童保護者(母親)は、「現在は就労していない」と回答しています。



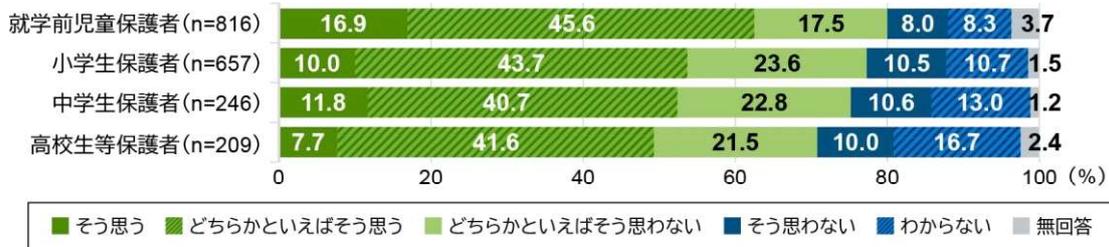
- 小学生保護者(母親)の40.0%、中学生保護者(母親)の39.8%、高校生等保護者(母親)の26.8%が、「正社員・正規職員・会社役員」として就労していると回答しています。また、子どもの年次が進むとともに、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」として就労していると回答する保護者の割合が高くなっています。



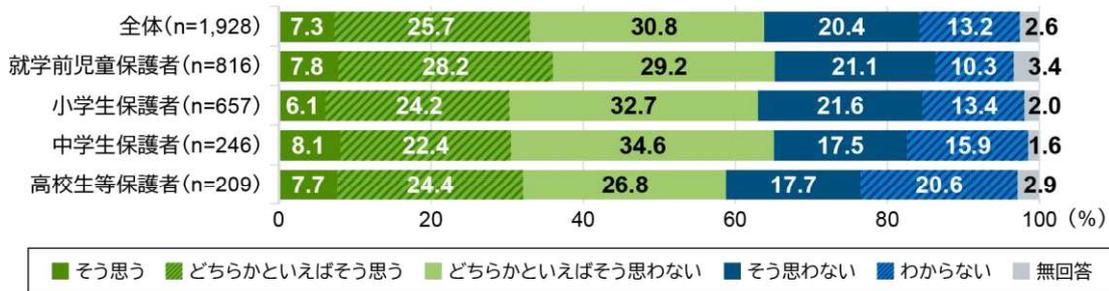
● 子育て環境への意識・意向

●「安心して子どもを産む環境づくりができています」と回答した割合は、就学前児童保護者で62.5%、小学生保護者で53.7%、中学生保護者で52.5%、高校生等保護者で49.3%でした。その一方で、就学者前児童保護者の8.0%、小学生保護者の10.5%、中学生保護者の10.6%、高校生等保護者の10.0%が「そう思わない」と回答しています。

■安心して子ども産む環境づくりができていますか



■子育てを視野に入れた住宅対策や道路・施設整備が行われていると思いますか



●育児に関して特に不安なことや悩んでいることとしては、「仕事と子育ての両立に関すること」と回答する保護者が最も多く、「遊ばせ方やしつけに関すること」、「病気や発育に関すること」、「食事や栄養に関すること」、「経済的な負担に関すること」が続いています。

■育児に関して、特に不安なことや悩んでいることはありますか(就学前保護者、n=816)



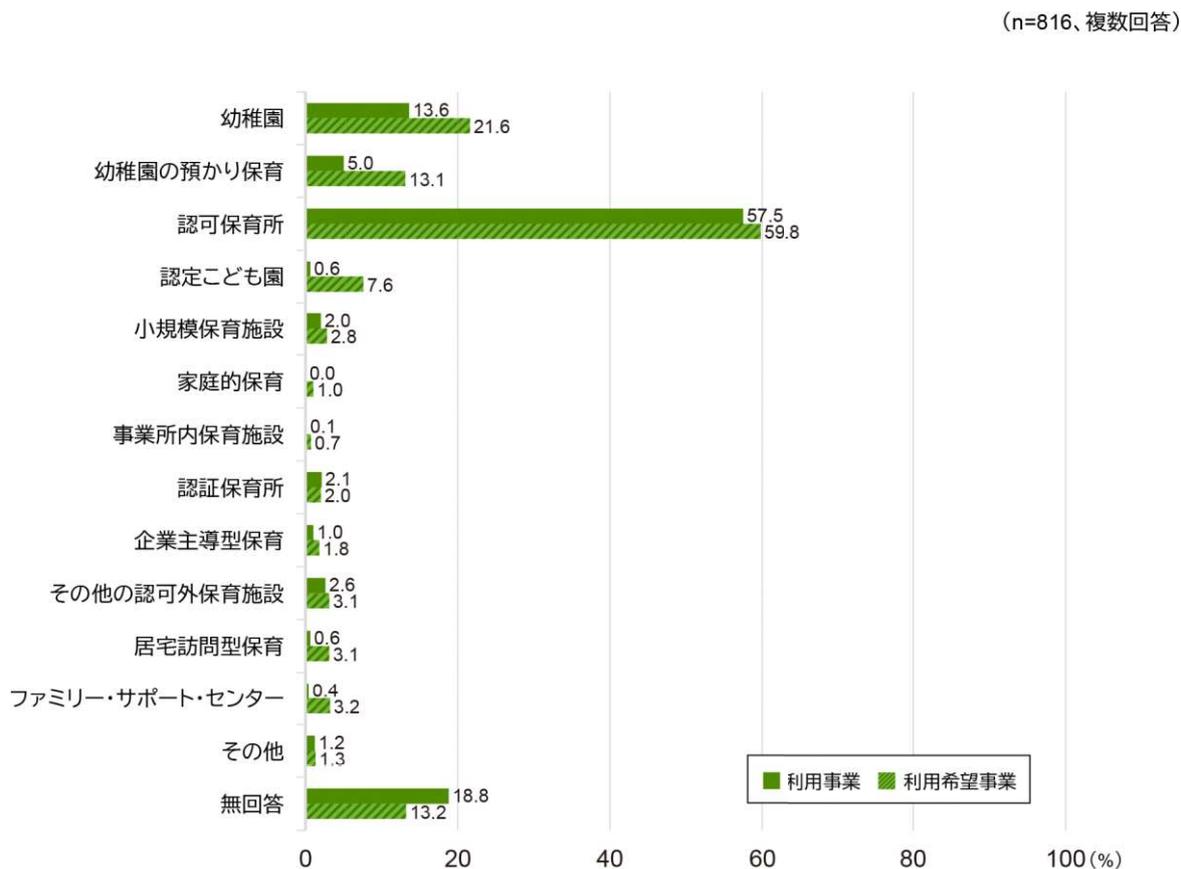
● 定期的な教育・保育事業の利用の有無(就学前児童保護者)

- 幼稚園や保育園などの定期的な教育・保育事業を「利用している」と回答している就学前児童保護者の割合は、前回調査時の78.2%とほぼ同様の81.0%となっています。



● 平日に利用している定期的な教育・保育事業(就学前児童保護者)

- 平日に利用している定期的な教育・保育事業について就学前児童保護者へ聞いたところ、「認可保育所」が57.5%と最も高くなっています。平日に利用を希望する定期的な教育・保育事業は、「認可保育所」への回答が59.8%を占め、「幼稚園」、「幼稚園の預かり保育」、「認定こども園」と続いています。



計画の基本的な考え方

子ども、若者と家庭を取り巻く状況

施策の方向

第三期子ども・子育て支援事業計画

計画の推進に向けて

資料編

● 定期的な教育・保育事業を選ぶ際に重視していること(就学前児童保護者)

- 就学前児童保護者に対して、定期的な教育・保育事業を選ぶ際に重視していることを優先する順に回答を求めたところ、「自宅の近く」及び「園長・保育士・職員スタッフ等の対応や園の印象がよい」の優先順位が高くなっています。
- 「施設・設備が整っている」、「兄弟姉妹が通っている」、「延長保育に対応している」、「保育だけではなく、様々な教育プログラムを提供している」も多く選択されています。

回答者数:816

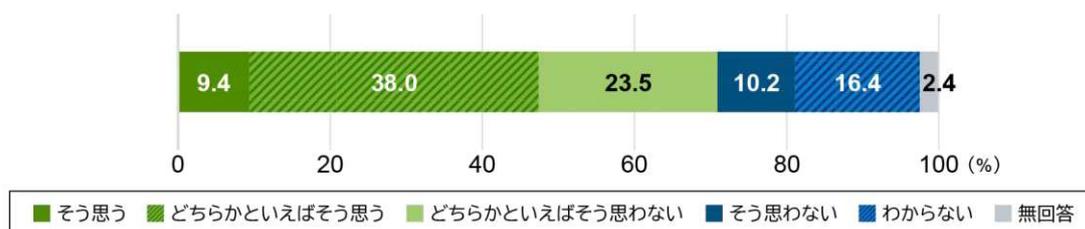
(単位:%)

選択項目	優先順位1	優先順位2	優先順位3	優先順位4	優先順位5
自宅の近く	① 57.6	② 15.3	⑤ 8.0	5.6	4.3
子どもが将来通う小学校のある居住地区内にあること	1.1	4.9	2.8	1.8	2.5
職場の近く	0.6	2.0	1.1	1.0	1.1
駅の近く	0.6	3.9	3.4	2.1	1.3
兄弟姉妹が通っている	③ 5.1	⑤ 8.7	5.1	3.3	3.7
延長保育に対応している	⑤ 2.9	8.1	④ 8.2	⑤ 6.9	8.8
夜間や休日保育に対応している	0.2	0.5	1.0	1.3	1.1
乳児保育を実施している	0.1	2.1	1.1	1.3	1.6
病院や病後児の対応を行っている	0.1	0.9	1.0	1.8	1.5
施設・設備が整っている	2.5	③ 10.3	③ 12.5	② 13.8	⑤ 9.1
送迎サービスを行っている	0.6	0.6	0.6	0.7	1.3
給食を提供している	2.0	④ 10.0	② 14.8	③ 12.0	② 9.6
地域の評判がよい	1.1	4.5	6.5	6.7	7.7
保育料が安い	0.2	1.0	2.7	2.8	3.3
行事が充実している	0.4	1.1	3.2	6.5	③ 9.4
園長・保育士・職員スタッフ等の対応や園の印象がよい	② 18.5	① 19.6	① 16.8	① 15.0	④ 9.1
保育だけでなく、様々な教育プログラムを提供している	④ 4.7	4.4	7.2	④ 7.8	① 12.3
その他	1.1	0.7	0.6	0.7	1.5
無回答	0.5	1.3	3.3	8.6	10.9

● “地域の子育て力”向上のために有効な取組

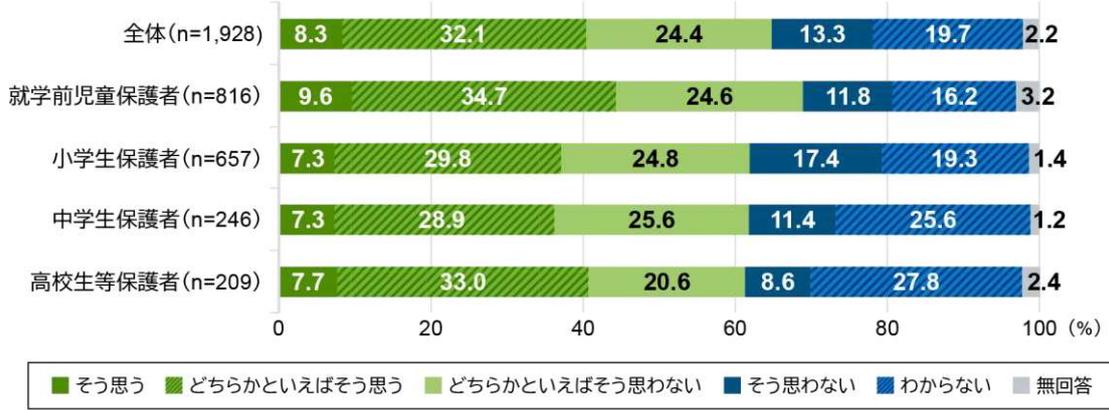
- 47.4%の保護者が「地域における子育て支援や見守り活動が活発に行われている」と回答しています。

■ 地域における子育て支援や見守り活動が活発に行われていると思いますか
(就学前児童・小中高高校生等保護者、n=1,928)



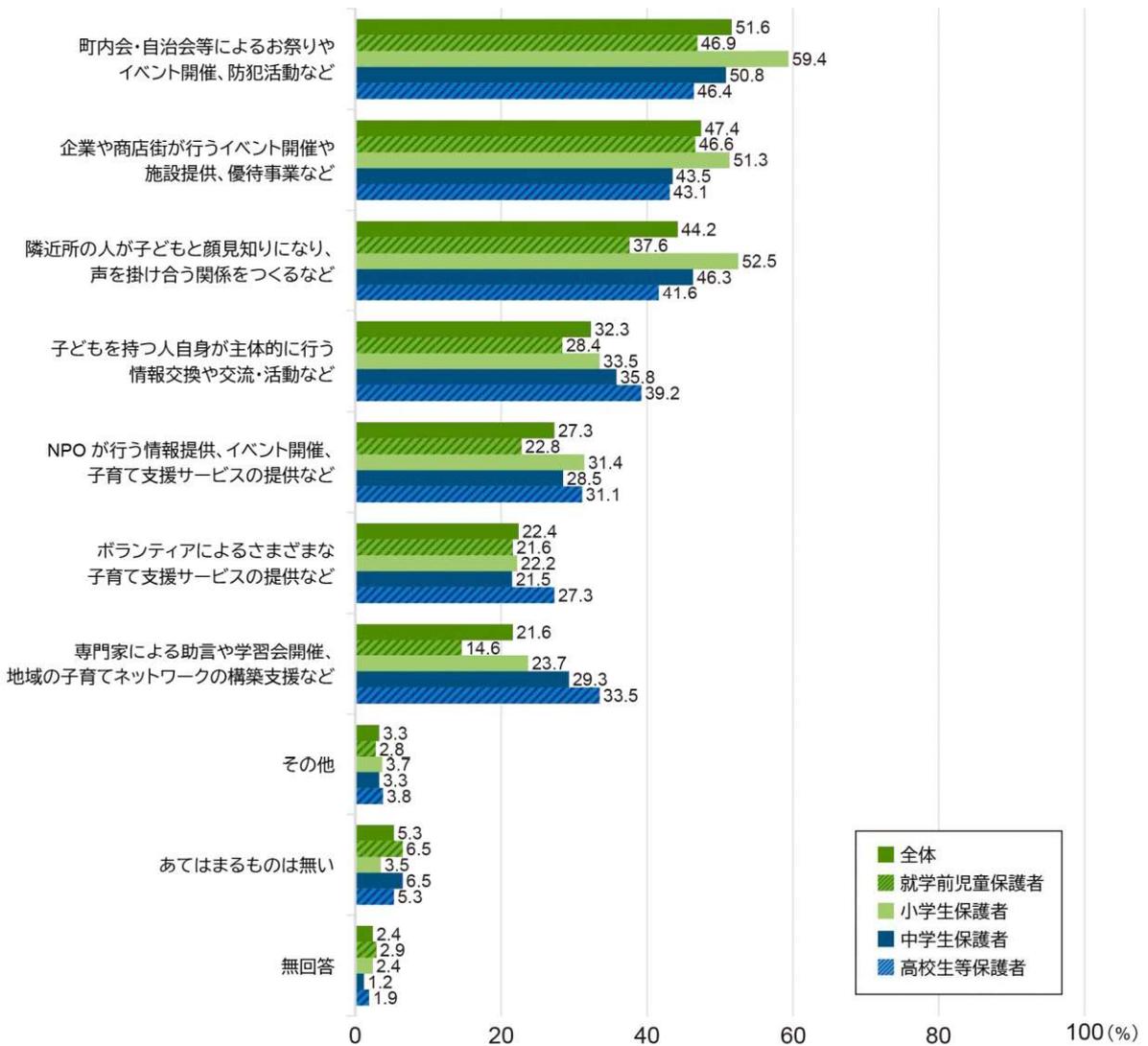
●保護者全体の40.4%が「職業生活と家庭生活を両立するための支援が行われている」と回答しています。

■職業生活と家庭生活を両立するための支援が行われていると思いますか



●地域の子育て力向上へ向けて有効な取組については、いずれの年代の保護者においても、「町内会・自治体等によるお祭りやイベント開催、防犯活動など」、「企業や商店街が行うイベント開催や施設提供、優待事業」、「隣近所の人子どもと顔見知りになり、声を掛け合う関係をつくるなど」への回答が高くなっています。

■地域全体で子育てを支援していく“地域の子育て力”を向上させるためには、今後どのような取り組みを進めることが有効だと思いますか



子育て施策や事業に何を望むか

- いずれの年代の保護者も、「子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備」、「安心して遊べる屋外遊び場の整備」、「休日・夜間診療などの小児医療体制の充実」の順に回答の割合が高くなっています。

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
就学前児童保護者	休日・夜間診療などの小児医療体制の充実	子どもが安心して遊べる公園等の屋外遊び場の整備	子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備	子育てに関する手当の充実や子育てにかかる経済的負担の軽減	幼稚園・小中学校における教育内容や教育環境の充実	仕事と子育ての両立を支援する保育サービスの充実	子育て期の生活環境・住環境の整備	母親や乳幼児の健康診査・予防接種等の母子健康事業の充実
	54.3%	52.6%	51.0%	47.1%	31.0%	30.5%	26.8%	25.2%
小学生保護者	子どもが安心して遊べる公園等の屋外遊び場の整備	子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備	休日・夜間診療などの小児医療体制の充実	子育てに関する手当の充実や子育てにかかる経済的負担の軽減	幼稚園・小中学校における教育内容や教育環境の充実	小学生、中高生が安心して過ごせる、子ども同士の交流・活動の場の整備	母親や乳幼児の健康診査・予防接種等の母子健康事業の充実	仕事と子育ての両立を支援する保育サービスの充実
	66.2%	61.9%	50.2%	42.5%	35.2%	28.9%	22.2%	18.6%
中学生保護者	子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備	子どもが安心して遊べる屋外遊び場の整備	休日・夜間診療などの小児医療体制の充実	子育てにかかる経済的負担の軽減	小学生、中高生が安心して過ごせる、子ども同士の交流・活動の場の整備	母親や乳幼児の健康診査・予防接種等の母子健康事業の充実	障害のある子どもや、ひとり親家庭などへの特に配慮を必要とする家庭への支援の充実	幼稚園・小中学校における教育内容や教育環境の充実
	57.7%	46.7%	45.9%	45.9%	24.4%	23.2%	23.2%	22.8%
高校生等保護者	子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備	休日・夜間診療などの小児医療体制の充実	子育てに関する手当の充実や子育てにかかる経済的負担の軽減	子どもが安心して遊べる屋外遊び場の整備	母親や乳幼児の健康診査・予防接種等の母子健康事業の充実	障害のある子どもや、ひとり親家庭などへの特に配慮を必要とする家庭への支援の充実	仕事と子育ての両立を支援する保育サービスの充実	幼稚園・小中学校における教育内容や教育環境の充実
	54.5%	46.4%	45.0%	38.8%	24.9%	18.2%	18.2%	16.7%

これからも豊島区に住み続けたいと思うか

- 「これからも豊島区に住み続けたいと思う」と回答した割合は、就学前児童保護者が88.0%、小学生保護者が84.3%、中学生保護者が83.8%、高校生等保護者が81.9%であり、いずれの年代においても80.0%以上となっています。

4 若者の意識・意向

計画の基本的な
考え方

子ども、若者と家庭を
取り巻く状況

施策の方向

第三期子ども・
子育て支援事業計画

計画の推進に向けて

資料編

● 就学・就労の状況

- 「正社員として働いている」と回答した若者の割合が50.0%で最も高くなっています。「契約社員、派遣社員、パート・アルバイト等として働いている」と回答した割合は9.6%、「専業主婦・主夫、家事手伝い」が2.1%、「自営業」が1.8%であり、「学生・生徒」と回答した割合は33.6%となっています。

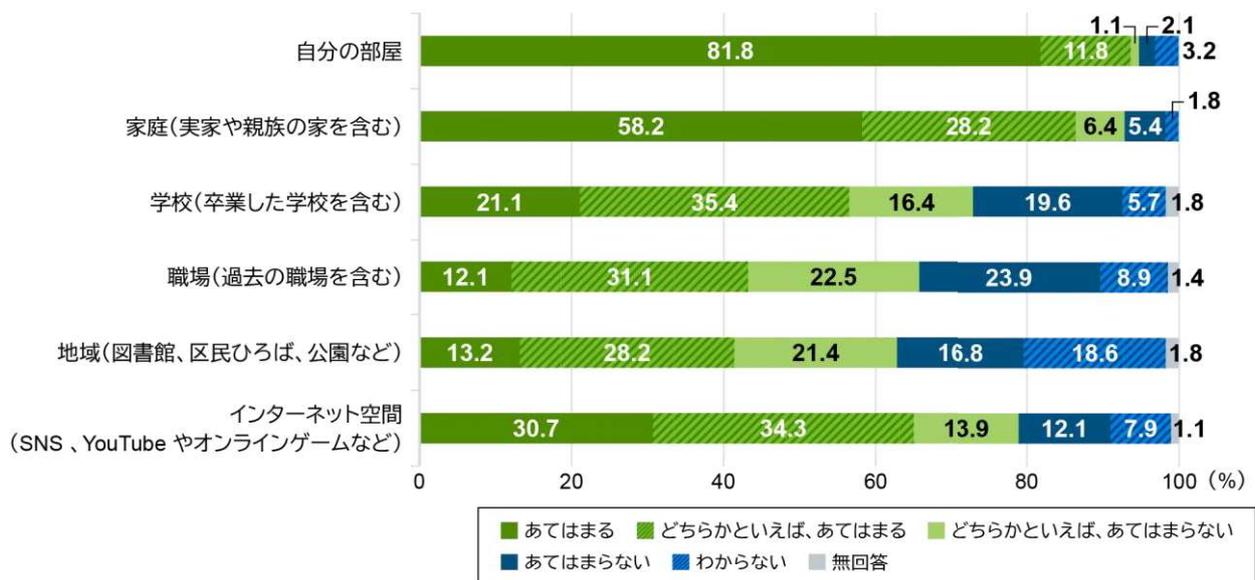
■ あなたの就学・就業状況について教えてください



● 若者の居場所

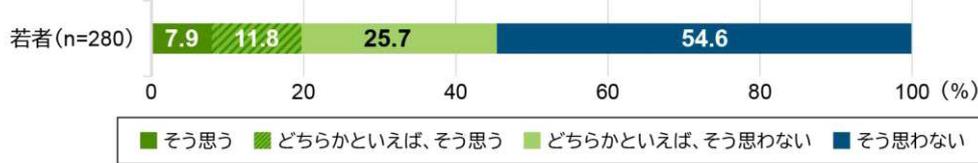
- 若者の81.8%が自分の部屋、58.2%が家庭を自分の居場所であると回答しています。その他、30.7%の若者がインターネット空間を居場所であると回答し、21.1%の学生が学校を居場所であると回答しています。

■ 次の場所は、今のあなたにとって居場所となっていますか(n=280、複数回答)



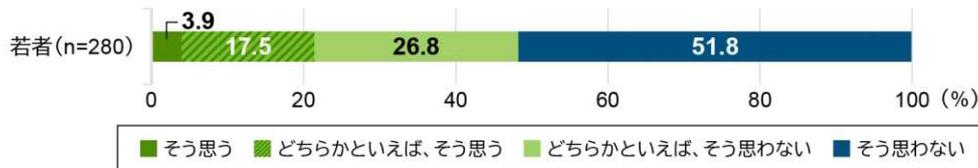
●若者の7.9%が「自分には話せる人がいないと思う」と回答しています。

■あなたは、自分には話せる人がいないと思いますか



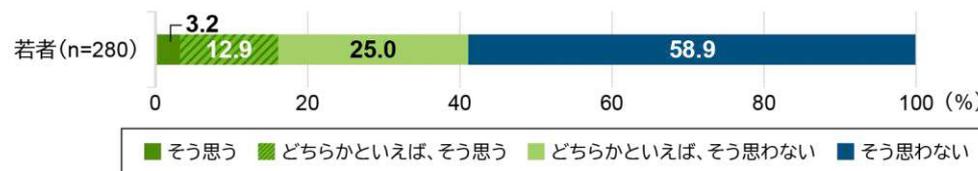
●若者の3.9%が「自分はまわりから取り残されていると思う」と回答しています。

■あなたは、自分はまわりから取り残されていると思いますか



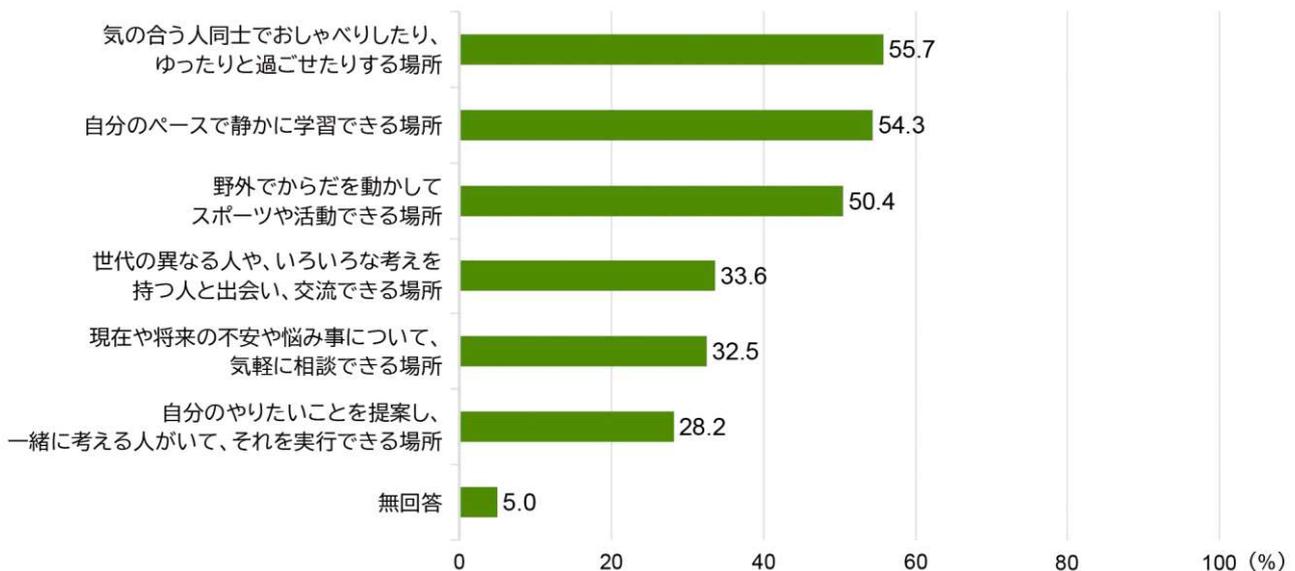
●若者の3.9%が「自分はまわりから取り残されていると思う」と回答しています。

■あなたは、自分はひとりぼっちだと思いますか



●地域の中にどのような場所があるとよいと思うかを聞いたところ、若者の55.7%が「気の合う人同士でおしゃべりしたり、ゆったりと過ごせたりする場所」、54.3%が「自分のペースで静かに学習できる場所」、50.4%が「野外でからだを動かしてスポーツ活動ができる場所」と回答しています。いずれの選択肢に対しても30.0%近くの若者が肯定的に回答しており、地域の中の居場所に対する若者の関心が高いことが伺えます。

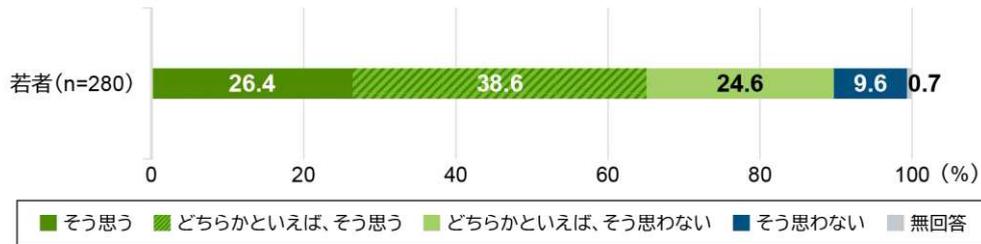
■あなたは、地域の中にどのような場所があるとよいと思いますか



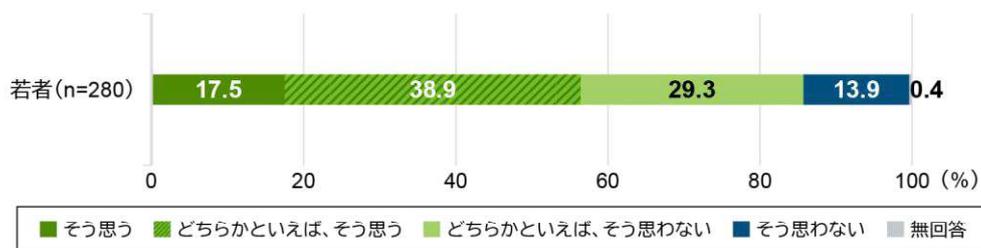
● 若者の自己肯定感・自己有用感

- 今の自分が好きだと思うかという質問では、若者の26.4%が「そう思う」、38.6%が「どちらかといえば、そう思う」と回答しています。
- 「自分の将来は明るいと思う」と回答した若者の割合は、17.5%となっています。一方で、若者の40.8%が、「自分が役に立たないと強く感じている」もしくは、「どちらかといえば自分が役に立たないと感じている」と回答しています。

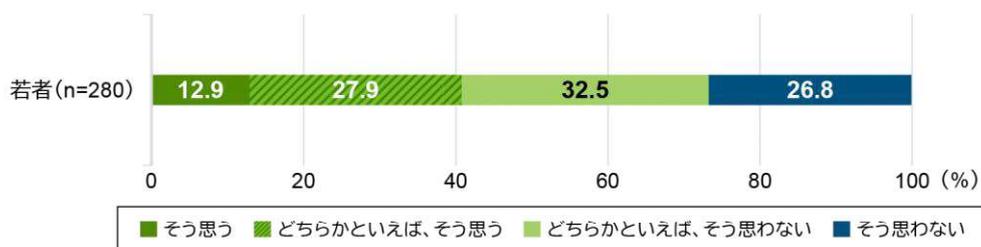
■今の自分が好きだと思いますか



■自分の将来は明るいと思っていますか



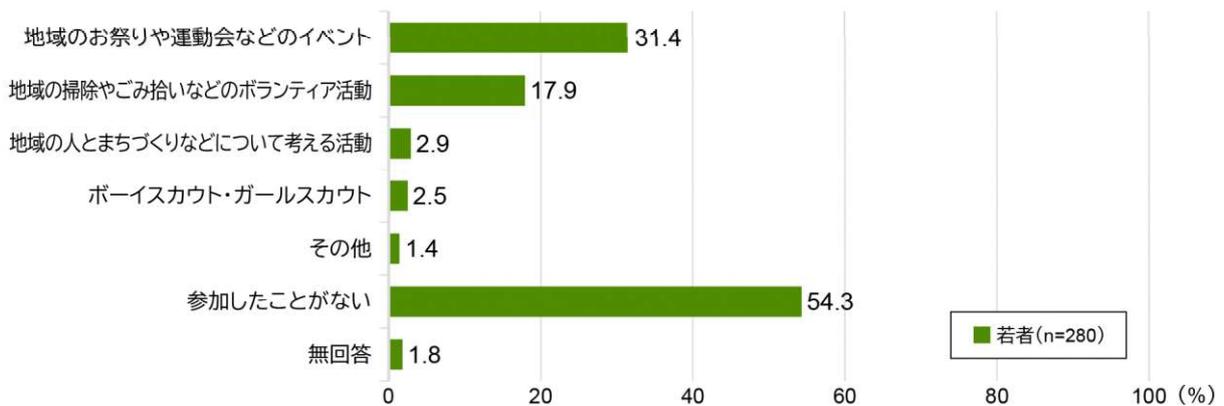
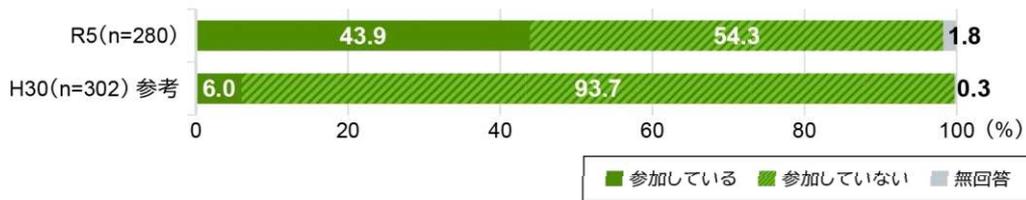
■自分が役に立たないと強く感じていますか



● 地域活動への参加状況

- 若者の半数がこれまでに地域活動に参加したことがあると回答しています。具体的には、「地域のお祭りや運動会のイベント」、「地域の清掃やごみ拾いなどのボランティア活動」へ参加したことがあると回答した若者の割合が高くなっています。

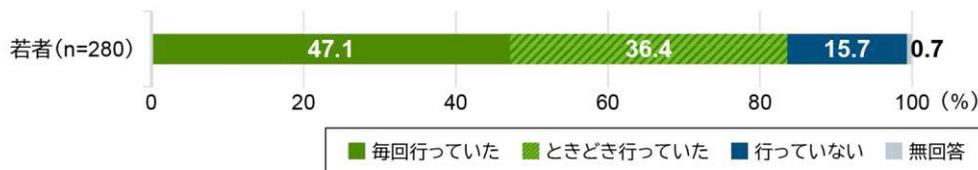
- 【R5】これまでに参加したことがある活動
- 【H30】この一年間に参加したことがある活動(参考)



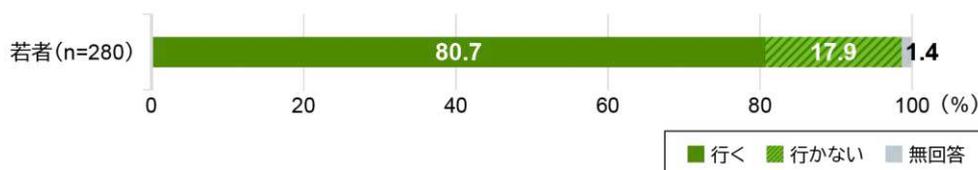
● 選挙への参画状況と参画意向

- これまでの国政選挙や地方選挙について「毎回行っていた」と回答した若者の割合が最も高く47.1%でした。次いで「ときどき行っていた」が36.4%、「行っていない」が15.7%となっています。
- 80.7%の若者が今後、国政選挙や地方選挙へ「行く」と回答しています。

- これまでに国政選挙や地方選挙に行っていますか



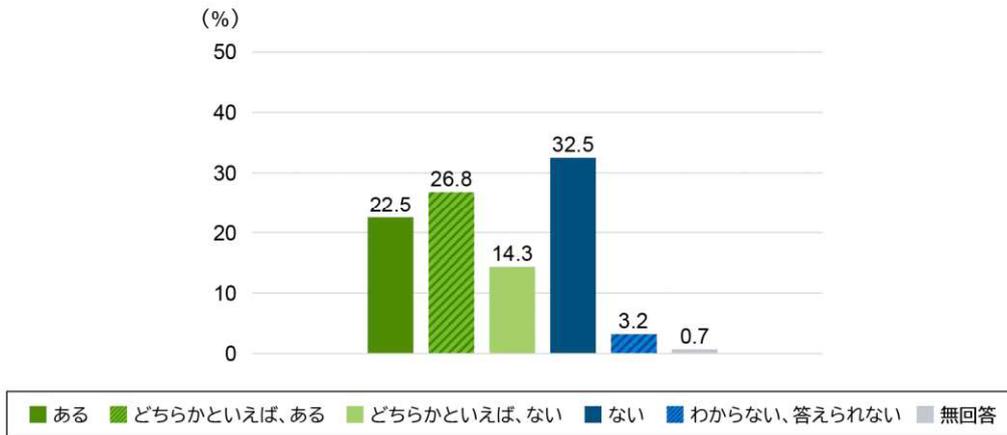
- 今後、国政選挙や地方選挙に行きますか



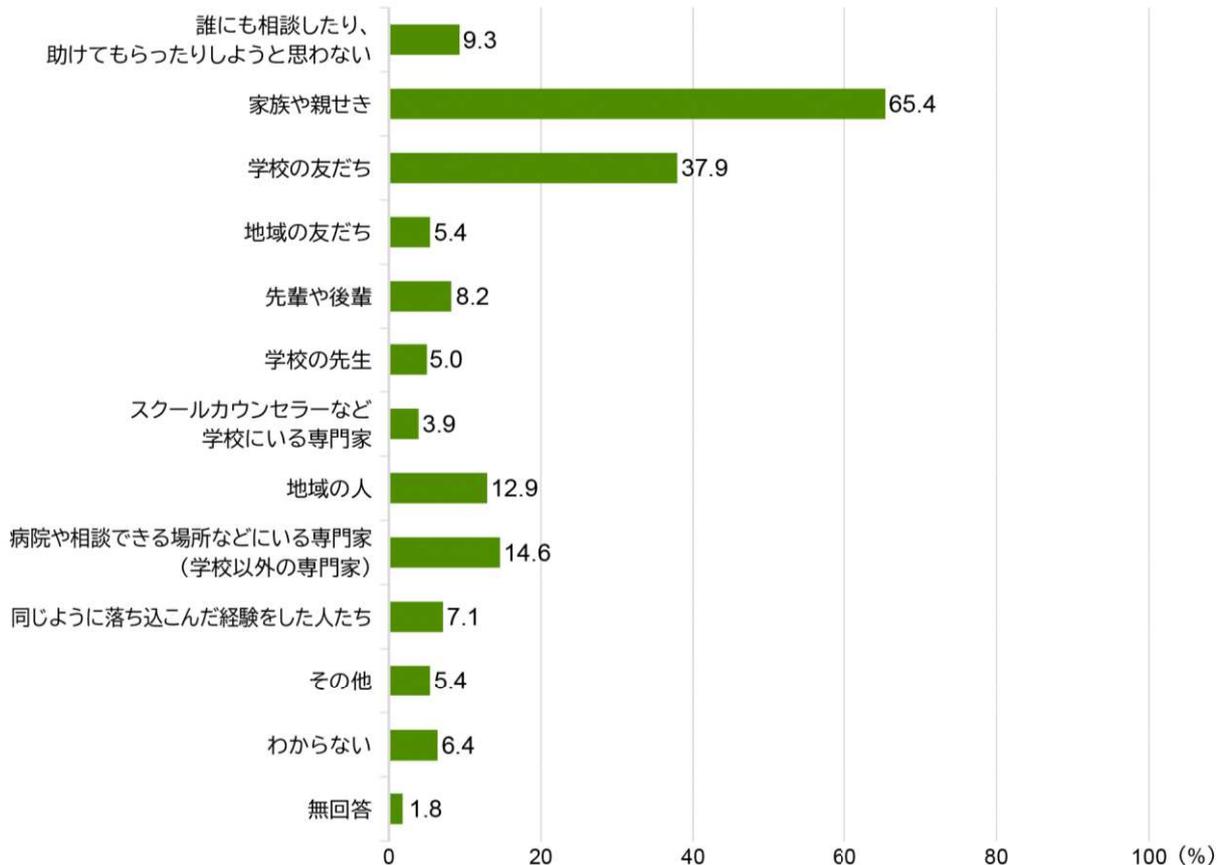
● 悩みや困っていることについて

- 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなくなった経験について、若者の22.5%が「ある」、26.8%が「どちらかといえば、ある」と回答しています。
- 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなくなった時の相談先は、「家族や親せき」、「学校の友達」と回答した割合が高くなっています。

■ 今までに社会生活や日常生活を円滑に送ることができなくなったことがありますか（若者、n=280）



■ 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなくなったときに、どういった人に相談しますか（若者、n=280）



3

子ども・若者の意識・意向〈ヒアリング調査の結果〉

調査目的

アンケート調査では把握しきれない子どもの思いや、困難を抱える子ども・若者の実態や意識を把握することを目的に、関係機関や団体の協力を得て、子ども・若者へのヒアリングを実施しました。

調査実施場所

(1)子どもの居場所

- ①子どもスキップ、②中高生センタージャンプ、③子ども食堂、④プレーパーク

(2)困難を抱える子ども・若者

- ①障害を持つ児童を受け入れている子どもスキップ
- ②外国籍の子どもを対象に支援を行う団体
- ③多様な性自認・性的指向の子どもを支援する団体
- ④不登校・ひきこもりの経験がある子ども
- ⑤虐待・DVなどの被害を受けた子ども

調査結果(ヒアリングから分かったこと)

【子どもの権利に関すること】

- いずれのヒアリング対象施設・団体においても、「豊島区子どもの権利に関する条例」を知らない、「なやミヤパンフレットを見たことはあるが権利についてはよく知らない」、という声が多数あり、アンケート調査結果と同様に子どもの権利に対する認知度の低さが見受けられました。

【子どもの意見表明・参加の促進に関すること】

- 周りの大人へ自分の意見を言える子どもと、言えない子どもがいました。子どもが意見を言えない理由としては、「心配されるので言えない」等、自分から大人への意見の伝え方に悩んでいる声が多くありました。一方で、「意見を言ってもしょうがないけど、必要なことを、人を選んで聞いている」等、意見表明を行うことについて前向きに捉え、自分なりに行動している様子も何うことができました。

- 「地域の行事へ参加している」との声が多くあり、地域の神社のお祭りや各施設のイベントに参加した経験のある子どもが多くいました。

【子どもの居場所に関すること】

- 放課後の居場所について聞いたところ、「ヒアリング施設や公園でサッカーやドッジボールをする」、「友人とカードゲームで遊ぶ」の他、「家で過ごす」という回答が多くありました。
- ホッとできる場所としては、「自分の家」や「ヒアリングを行った施設」を挙げる声が多くありました。

【子どもの権利侵害の防止及び相談・救済に関すること】

- 少数ながら暴力を受けた経験や傷つく言葉を言われた経験等を話す子どもがいました。
- また、「先生は、子どもにやってはいけないということを自分化する」、「区役所に相談したけど何もしてくれなかった」といった、先生や区の対応に対する意見もありました。

【悩みや不安、相談に関すること】

- 「悩みや不安はない」、「回答したくない」子どもが多数でした。小学生では、「友達や先生との関係」や「中学生になったら友達ができるのか心配」、中高生以上では、「将来への不安」や「自分の人間性」、「学校がつまらない」等の声がありました。
- 悩みの相談先は、「親や兄弟」、「仲の良い友達」、「先生」という回答が多数ありました。一方で、「誰にも言えない」等の回答もありました。また、相談窓口を知っている子どもはほぼいませんでした。
- 性的マイノリティの子どもからは、「親にも誰にも相談できる状況ではなく、親や学校へ性的マイノリティに対する理解促進が必要である」という意見がありました。
- 利用しやすい相談先としては、「家や学校等身近なところで相談をしたい」という声がある一方で、「親などに絶対言わないでほしい」という声もありました。区の相談窓口については、区立小中学校生徒全員へ導入されているタブレット端末を活用した相談システムである「アシスとおはなし」への好意的な回答や、「相談できる人が近くにきてほしい」といったアウトリーチへの要望等、多様な回答がありました。

【子どもの自己肯定感について】

- 多くの子どもが「自分のことが好き」「毎日が楽しい」と回答しました。しかしながら、「自分のことが嫌い」といった声もありました。
- 親や友達など、周りから大切にされているかという問いについては、多数が「大切にされている」と回答しました。なかには、「親からは大切にされていない」「施設のスタッフからは大切にされているが、自分がそれに応えられていない」という意見もありました。

【豊島区の施策に関すること】

- 区役所にやってほしいこととして、「公園」に対する要望が多く出され、特に「野球やサッカーができる公園を増やしてほしい」との声がありました。その他、自分が利用する施設を増やしてほしいという声が多くありました。

